

特集

筑波大学附属諸学校を巡る（第2回）

目次

- グラビア …… 01～02
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 03
- 謹賀新年 平成28年 今年もよろしくお願いいたします …… 04～05
- 新年のご挨拶 茗溪会理事長 江田昌佑 …… 04～05
- 特集 筑波大学附属諸学校を巡る その2 …… 06～11
- 公開講座「耳を澄まして聞く英語」藤原保明 …… 12～13
- 公開講座「茶の湯にみる和食文化」熊倉功夫 …… 14～17
- 筑波大学はいま …… 18
- 第14回 茗溪会賞 …… 19
- 茗溪・東西南北 …… 20～21
- 茗溪学園だより …… 22
- 桐の葉のつどい …… 23
- 追悼録 …… 24
- 著書紹介 …… 24
- 平成27年 秋の叙勲おめでとうございます …… 25
- 広報 …… 25
- 編集後記 …… 25

茗溪



正月

2016

平成28年

no.1088



Yuchheim
SINCE 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.yuchheim.co.jp/yuchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間 平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PDAからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビル3F
TEL.03-5784-8831 (代表) FAX.03-5784-8832

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

〈4つのスーパーサイエンス特別専攻〉

- 環境エネルギー
- 医生命科学
- ICTスペシャリスト
- 次世代自動車開発

2014年度
4月新設

科学的センスとクリエイティブな実践力を身につけた
理数系教員を養成する

STC サイエンス・ティーチャー
SCIENCE TEACHER COURSE 養成コース



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

理事長 中部 謙一郎
理 事 河野 隆二(S47農)
顧 問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)
監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)

工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
[管理栄養士養成課程]

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

第14回 茗溪会賞顕彰式

筑波大学において
平成26年11月28日 (P.19 参照)



公開講座 「茶の湯にみる和食文化」

講師 熊倉功夫氏

平成27年11月14日 (P.14 ~ 17 参照)



公開講座「耳を澄まして聞く英語」

講師 藤原保明氏 平成27年9月26日 (P.12 ~ 13 参照)





「嶽之内みどりを守る会」



国際交流団体 「コスモエコー」



置き薬でアフリカの医療支援を
町井恵理さん



病乗り越え 300 種類のおもちゃをつくる
真野末広さん



土地の生き返りを願う
井原次夫さん

茗溪会賞（社会貢献活動功労者）第14回顕彰から

（P.19 参照）



「あかねの会」音楽クラブ



「つくばけやきっず」



「やさと すてきな旅案内人の会」

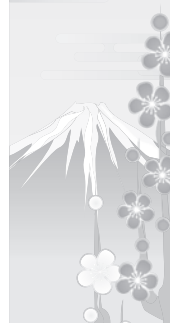


70 歳大学生 被災者支援
大田初子さん



世界で唯一、被爆者合唱団を指揮する
寺井一通さん

年頭挨拶



筑波大学長

永田 恭介

明けましておめでとうございます。

茗溪会の皆様には、旧年中は様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

大学にとつては苦難の道が続いています。とりわけて国立大学の在り方について様々な議論が興っています。大学の役割は「教育」と「研究」をすすめ、もって「社会貢献」することと教育基本法第七条第一項（平成18年改正）に明文化されています。実際、国立大学は我が国を支える人材を輩出してきました。我が国のほとんど全ての一ノベル受賞者を生み出してきたのが国立大学であるという観点からは我が国の中心となつて研究を支えてきたと言えます。国や地域の社会・経済・産業・文化・医療・福祉などの拠点としても地道な貢献をしてきています。加えて、先に挙げた教育基本法第七条の第二項には、「大学は自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない」とも明記されており、この観点から大学ごとに機能強化に向けて相

この際、重要な疑問として浮かび上がるのが、果たして国立大学が進めてきた改革が本当に大学側からのアクションであつたかどうかということです。多くの改革が政府の施策に対するリアクションの場合が多かつたのではないかということです。この点への反省も踏まえて、国立大学協会は、昨年9月、将来にわたり国立大学が世界に開かれた高等教育機関として、その機能を最大限発揮できるように、主体的な取組の方向性と具体的な工程を明らかにした「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」を公表し、国立大学の自律的かつ着実なさらなる改革の決意を表明しています。

本学の理念の一つは、その活動の先駆性についての詳察とそれに基づいた不断の改革を進めることです。本学は時代の流れとともに大学をめぐる状況が大きく変化していることを認識し、一昨年10月の開学40周年を期に、「新構想大学」から「未来構想大学」というキーワードのもと、さらなる挑戦と冒険を重ねています。

教育に関しては、ディシプリン型の学問領域を大切にしながら、国際的に互換性のある学位システム、すなわち学生の視点に立脚した「学位プログラム」への全学的な移行に取組んでいます。国際的な通用性・信頼性の向上、国際競争力の強化、国際的に活躍できる人材の養成、学生・教員等の流動性の向上等に繋がるよう、更なる発展に向け大学一体となつて努力して参ります。

研究に関しては、3つの学術センターの設置とその活動を支援しています。数理物質科学と生命科学分野に加えて他の大学には見られない人文社会科学分野の3つのセンターです。こうした個々の分野あるいはディシプリンの卓越した研究を支援しながら、一方で社会に見える形の研究の支援も進めています。いわゆる総合特別区域法に基づく「総合特別区域」として、本学が関わる「つくば国際戦略総合特区」および「健康長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区」の2件が選定されています。また、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）として「国際統合睡眠医科学推進機構」や、国際

科学イノベーション拠点整備事業（COI）として「高細精医療イノベーション拠点」がそれぞれ選定されております。

大学のグローバル化の促進についてもお伝えいたします。文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援」事業への採択を期に、世界のパートナー校と連携し、教育研究の資源をバリアフリーで共有するキャンパスインキャンパス（Campus-in-Campus）システムを構築し、現在は、フランスのボルドー大学、国立台湾大学と提携し、活動をスタートさせました。今後も、海外パートナーを拡充する予定です。

今、この大学に必要なことは社会との協働と社会からの支援です。社会の中で本学を最も愛してくれる人々は、我々のもとで学んだ学生達だと信じています。大勢の人間が共にひとつの未来を想うとき、そこに未来を生み出す力が生まれます。卒業生、修了生の方々こそ、大学の未来を、そしてヒトの未来、地球の未来を、大学と共に想い、創る仲間だと信じています。

その仲間との交流のためには、在学生や教職員らも含めて本学関係者との交流を促進し、相互支援や情報の共有化を図るための交流の場や機会が必要です。そして、それ以上に、卒業生、修了生の皆さんが一体感を持てる集まりが必要です。学内には、多くの卒業生、修了生の集まりがあります。そして毎年、新たな卒業生、修了生が生まれていきます。こうした集まりや人々のつながりがを広げ、横断的かつ機能的な交流の推進に向けた組織化が重要な課題だと考えています。

貴会は、明治15年、東京師範学校卒業生によつて設立された東京茗溪會を源流とする伝統ある集いです。貴会は、あらゆる意味において、多様な卒業生、修了生グループのロールモデルであり、模範であつて欲しいと考えています。本学が考えている上述した今後の組織化にあたり、貴会の前進的な運営・活動、またそれらの改革に期待するところです。

今年もよろしく願いいたします

一般社団法人
茗 溪 会

神奈川茗溪会 若手とともに茗溪の輪を広げます 会 長 清 水 進 一 (昭和43年卒 教大数) 事務局長 矢 野 正 人 (昭和53年卒 修院農) (会長自宅) 〒254-0075 神奈川県平塚市中原1-25-24 TEL 0463-31-3350	東京都茗溪会 <table border="0"> <tr> <td>会 長</td><td>高橋 基之</td><td>東京都教職員研修センター教授</td></tr> <tr> <td>副 会 長</td><td>柳 久美子</td><td>文教大学付属幼稚園長</td></tr> <tr> <td></td><td>真当 哲博</td><td>(株)学研教育みらい取締役</td></tr> <tr> <td></td><td>渡邊 悟</td><td>食医同源の会代表</td></tr> <tr> <td>事務局長</td><td>徳田 安伸</td><td>都立園芸高等学校長</td></tr> <tr> <td>会 計</td><td>浅井 一郎</td><td>(有)ティー・ユー・オー企画代表取締役</td></tr> <tr> <td>監 査 役</td><td>飯島 睦子</td><td>大田区立立方中学校長</td></tr> <tr> <td></td><td>塩津 真</td><td>(株)キャリアアンカー代表取締役</td></tr> <tr> <td>相 談 役</td><td>高野 力</td><td>茗溪会常務理事</td></tr> <tr> <td></td><td>福岡 一雄</td><td>茗溪会理事</td></tr> </table> 平成28年 総会・講演会・交流会 11月20日(日) 14:00～(予定) 「茗溪・筑波大学産業人会」 毎月 第3水曜日(ただし11月は除く) 新泉会(教職員同窓会)新会員歓迎会 7月10日(日) (予定) (事務局)〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会大塚事務所内 TEL 03-3941-0136		会 長	高橋 基之	東京都教職員研修センター教授	副 会 長	柳 久美子	文教大学付属幼稚園長		真当 哲博	(株)学研教育みらい取締役		渡邊 悟	食医同源の会代表	事務局長	徳田 安伸	都立園芸高等学校長	会 計	浅井 一郎	(有)ティー・ユー・オー企画代表取締役	監 査 役	飯島 睦子	大田区立立方中学校長		塩津 真	(株)キャリアアンカー代表取締役	相 談 役	高野 力	茗溪会常務理事		福岡 一雄	茗溪会理事
会 長	高橋 基之	東京都教職員研修センター教授																														
副 会 長	柳 久美子	文教大学付属幼稚園長																														
	真当 哲博	(株)学研教育みらい取締役																														
	渡邊 悟	食医同源の会代表																														
事務局長	徳田 安伸	都立園芸高等学校長																														
会 計	浅井 一郎	(有)ティー・ユー・オー企画代表取締役																														
監 査 役	飯島 睦子	大田区立立方中学校長																														
	塩津 真	(株)キャリアアンカー代表取締役																														
相 談 役	高野 力	茗溪会常務理事																														
	福岡 一雄	茗溪会理事																														
奈良茗溪会 会 長 藤 善 尚 憲 (昭和31年卒教大体) (昭和33年卒教大教) 〒632-0094 奈良県天理市前栽町310-2 TEL・FAX 0743-63-0339	一般社団法人 茗溪会 理事 学校法人 茗溪学園 事務局長 柴 田 淳 (昭和52年教体卒) (昭和56年筑修体) 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611																															
学校法人 茗溪学園 茗溪学園中学校高等学校 理事長 中 川 喜久治 校 長 田 代 淳 一 (昭和59年筑波大修士教育研究科・理科) 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611	一般財団法人 筑波学都資金財団 副理事長 鶴巻 勝夫 (昭和35年卒 教大・数) 常務理事 高野大二郎 (昭和40年卒 教大・体) 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5253																															
一般財団法人 筑波学都資金財団 理事長 田 中 正 造 (昭和36年卒教大・健) 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152	一般財団法人 筑波学都資金財団 理事 筑波大学学生宿舎管理事務所 所 長 武 井 秀 一 (昭和51年卒教大化学科) 〒305-0005 茨城県つくば市天久保二丁目1-1 平砂管理事務所 TEL 029-858-0131																															

これらの諸事業は、本年も引き続いて進め、なお、一段の充実を図って参りたいと強く決意しています。

一方、茗溪会館の現状についてご報告申し上げますと、平成27年9月1日に会館をリニューアル・オープン致しました(季刊誌秋号表紙参照)。一年半にわたるご不便を

披露し実施しました。

また、そのためには、「5%の会員増加」、「5%の収入増加」そして「5%の経費削減」を実行に移すべきとの考えを申しました。そして、このキャンペーンを、『gol・5・go』作戦と名付けて私たちの合言葉として、各年間の目標として進めて参りました。全国の皆様には特に茗溪フェローにつきまして絶大な協力を得ているところと。

茗溪会と致しましては、新法人発足以来毎年の新年のご挨拶に際しまして、事業の基本的な柱として、

1. 同窓会としての互助事業の充実
2. 公益目的事業の充実
3. 大学への支援の充実

等を実施して参りたいと私は申しております。

そのため、会費制度の改正、地域組織等の単位組織の活性化のための活動支援の改善、また、世代を繋ぐ事業として『茗溪フェロー』の創設をすること等を図り、『茗溪会拡充キャンペーン』を推進して参りたいとの考えを披露し実施しました。

明けましておめでとうございます。

全国の地域組織等のみなさまも、新しい抱負を持って新しい年を迎えられたことと存じます。

私どもの茗溪会是一般社団法人として、同窓会としての性格を今まで以上にはっきりさせるための「新法人」に衣替えをしてから、4回目の新年を迎えることになりました。



一般社団法人 茗溪会
理事長
江 田 昌 佑

新年のご挨拶



謹賀新年 平成28年

一般社団法人 茗溪会 理事長 江 田 昌 佑 (昭和30年卒教大体育) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗溪会 副理事長 井 口 武 雄 (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険㈱ 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111	一般社団法人 茗溪会 副理事長 西 川 潔 筑波大学名誉教授・博士(デザイン学) (昭和44年教大構成 昭和46年院修美) 〒305-0031 つくば市吾妻3-1-1-109 e-mail: q.nishikawa@gmail.com
一般社団法人 茗溪会 理事 国立大学法人 筑波大学 体育系教授 教育学博士 阿 江 通 良 (昭和48年教大体育) 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL 029-853-2010 FAX 029-853-6310 E-mail: ae@taiiku.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学数理 物質系教授 化学専攻長 研究基盤 総合センター長 新 井 達 郎 (昭和56年博士課程化学研究科修了) TEL 029-853-4315 arai@chem.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 大 勝 信 明 (昭和26年卒文四) 墨林書道院特別顧問 東京親鸞会 副会長
一般社団法人 茗溪会 理事 川 田 孝 一 (昭和39年卒教大総農科) 〒194-0045 町田市南成瀬5-29-6 TEL 042-728-5428 連絡先 桜美林大学入試広報センター 相談役 TEL 042-797-6196	一般社団法人 茗溪会 理事 神 林 喬 (昭和40年教大教育学科卒) 〒225-0023 横浜市青葉区大場町360-51	一般社団法人 茗溪会 理事 五 味 田 優 (昭和47年卒教大文学部国語学国文学) 〒310-0911 茨城県水戸市見和1-377-16 TEL 029-221-9603
一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学 生命環境系教授 教育企画室長 佐 藤 忍 (昭和60年筑波大博士課程生物) TEL 029-853-4672 email: satoh.shinobu.ga@u.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 福岡経営労務事務所 所長 社会保険労務士 福 岡 一 雄 (昭和32年卒教大法政) 〒125-0042 東京都葛飾区金町3-27-3 TEL 047-361-2618 FAX 047-361-2643	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学教授 守 屋 正 彦 (昭和51年教大芸卒 昭和53年教大院修美) 〒305-0005 つくば市天久保4-5-4 TEL 0298-50-3901

おかけしたことをお詫びいたします。

会員はじめ多くの方々が快適に利用できることが茗溪会館の理念でもありますので、会議室、集宴会、ウエディング等慶弔催事飲食等の業務は従来通り提供できるように努めています。

平成7年新築の会館は20余年を経ていますので建物全体を新とするための努力をいたしました。建物本体は一部の補修を主として内装と設備等をリニューアルいたしました。旧館時代からの調度品や美術品などは優れたものが残っていますので活用することもできました。先輩達の尊い遺産を活用できたことで一安心しているところです。

新しく契約した㈱シーズンは経営意欲の旺盛企業であり、多大の努力をしてくださることで、採算を十分にプラスして、本会の経営にプラスになるよう期待しています。本会も協力を惜しまない所存ですので、会員の皆様にあつてはご利用いただければ嬉しいことです。

夢は広がりましたが大学において元旦恒例の箱根駅伝大会への復帰がもくろまれていたとの事でございます。箱根駅伝の歴史をみると母校は輝かしい伝統校です。夢の一つとして期待しています。

2019年ラグビーワールドカップが日本で開催されます。2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。年が改まりますと、開催時に一歩近付き、アスリートや関係者は一段の緊張の度合いが高まります。

筑波大学の学生・卒業生また、附属学校の関係者にも出場が期待される候補者も多く、私たち同窓と致しましても応援する気持ちが高まります。

その為にも、内に在っては5・5・5作戦の充実、全国地域組織等の強化充実、会員相互の協力等を図りながら、歴史ある「茗溪会」の姿を一層燃焼させて、後に続く後輩の「明日の発展」のために、老、壮、青の会員が力を合わせ、お互いに手を取り合い、組織を進めて参りたいと存じます。

よろしくご協力の程をお願い申し上げます、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

筑波大学附属中学校の「いま」

○沿革

本校は、明治二十一年、既に師範学校に付設されていた附属小学校を附属学校と改称し、尋常中学校を設置したことが創立となります。昭和二十四年に東京教育大学附属中学校、昭和五十三年に筑波大学附属中学校と改称し、現在に至ります。初代校長は、NHKの大河ドラマ「八重の桜」にも登場した山川浩です。現校長は野津有司（筑波大学体育系教授）先生です。

1 教育方針

◆校訓 「強く 正しく 明るかに」

筑波大学の前身、師範学校を創設した嘉納治五郎先生は本校の第三代校長でもありました。その教えに「精力善用」があります。「備えた能力を正しく使うこと」を説いており、精神力・体力・学力をしっかりと身につけ、それを世のために使いなさいとの教えと捉えています。

また生徒が明るく元気に学校生活を送ることも大切にしようという思いも込めています。

この校訓は、そうした教えや思いが本校教育の礎となっていることを表しています。



◆教育目標

校訓を受けて、教育目標を「調和的な心身の発達と確かな知性の育成、豊かな個性の伸長をはかるとともに、民主的社會の一員として人生を主体的に開拓し、すすんで、人類社會の進展に寄与することが出来る人間を育成する」と設定し、教育活動に努めています。

この目標を達成するために生徒の育てたい資質として、次の七つを定めています。

- ① 自主自律の精神
 - ② 強い意志とたくましい実践力
 - ③ 積極的な創意と探究心
 - ④ 広い視野に立つ正しい判断力
 - ⑤ 明朗率直で誠実な態度
 - ⑥ 集団生活における協力と責任
 - ⑦ 人間愛にもとづく思いやりの心
- こうした資質を備えた生徒の育成に力を尽くしていこうと考えています。

2 本校教育の全体像

◆先導的教育

教科教育と教科外教育をバランス良く配置し、全国に発信できるカリキュラムを常に研究、実践しています。

まず、教科教育では、各教科の教科学習は特に力を入れているところです。同時に総合的学習の実践も三十年以上、継続しています。文科省の「総合的な学習の時間」

が設定される以前から、教科横断的な内容を取り入れて実践してきました。

もう一方の教科外教育は活動領域と捉え、次のような活動を行っています。道徳や特別活動、学級・学年活動をまとめたHR活動、そして生徒会、部研究会活動をまとめた生徒による自治活動などの実践的活動です。

この二つの活動を中心に据え、先導的教育を実践する中学校になることを目指しています。

◆国際教育

国際教育は、ダイバーシティを知る教育とも考えられ、特別支援学校と連携しながら、交流教育として取り組んでいます。また筑波大学と連携し、オリンピック・パラリンピック教育についても、全国に先駆け、保健体育科を中心に取り組んでいます。

さらに海外への短期留学も実施しています。シンガポールやアメリカ諸州へ十日間のホームステイをしながら、現地校の授業に参加し、交流活動を行っています。

また外国から来校していただくことも歓迎しています。海外からの修学旅行生の受け入れでは、互いの顔がわかり、国同士の結び付きを越えた一人一人の繋がりが大切であることを、生徒に感じてほしいと願っています。



◆教師教育

本校は、教師を目指す学生に、教育実習を実施する学校としての機能を、高等師範学校の時代から受け継いでいます。

近年教育実習を希望する学生は減少傾向にありますが、本校で教育実習を経験し、教師となった学生は、皆、立派な教師になっていると自信をもっています。

筑波大学の学生のみならず、本校を卒業し他大学に進んだ学生の教育実習も受け入れています。筑波大学内外の学生の相互交流が良い刺激になっていると思います。

また、全国の教員の長期研修を実施しています。教員免許状更新講習会と併せて、現職の教員の研修の場としての役割も担っています。

こうした本校の教育研究の成果は、出版物にまとめられています。最近のものでは、「新しい学習指導の基礎技術と実践・東洋館出版」、毎年刊行の研究紀要等で、全国に研究成果を発信しています。

3 学校行事

本校の学校行事は、生徒が中心となって作り上げられます。長い伝統の中で、生徒の自治によって運営されるよう洗練されてきました。学年単位のものや学校全体で行われるものも含めて、生徒主体の委員会が組織され、企画・運営されます。

◆「富浦生活」第一学年 夏

入学して、最初の夏の行事として、千葉県南房総市富浦で、四泊五日の海浜生活が行われます。「富浦生活を終えて、初めて附属生になる」とまで言われ、百



年を超える伝統行事となっています。各クラス学級委員からなる富浦委員会が組織され、寮生活を運営します。水泳指導では、約一時間の遠泳の完泳を目指し、卒業生で組織された「桐游倶楽部」に、水泳指導の協力を仰ぎます。

七月の下旬はまだ、水が冷たいときもあり、また台風の影響で海が荒れ、遊ぶことに苦労することもあります。そんな体験を乗り越えて、遠泳を泳ぎ切った後の生徒達の成長は目を見張るものがあります。

◆「菅平生活」第二学年 夏

第二学年、夏の行事として、長野県菅平での高原生活があります。七月中旬、登山やオリエンテーリング、キャンプファイアや丘の上でのレクリエーションで、高原生活を満喫します。登山では日本百名山の一つである四阿山とその隣の根子岳へ向かいます。早朝、おにぎりを宿の方に用意していただき、水筒に水をしっかりと補給し、万全を期して登り始めます。総勢二百人での登山ですの

で、地元のガイドさんの応援も得て、状況が良ければ両山の縦走を試みます。登りの辛さに耐え、頂上へ辿り着いたときの達成感、生徒に大いなる自信を与えています。もちろん天候に恵まれず、登頂を断念することもあります。挑戦した勇気を忘れることはありません。また爽やかな高原でのレクリエーションや夜のキャンプファイアは、生徒達にとって



良い夏の思い出となっているようです。

この行事の運営も、二年になって新しく学級委員になった生徒達が、菅平委員会を組織し企画・運営にあたります。三泊四日の宿での生活、登山の班編制、レクリエーションの内容検討、オリエンテーリングやキャンプファイアの準備等々、二年生の生徒全員が高原生活を有意義に送れるよう、力を尽くします。

◆「修学旅行」第三学年 五月

三年生になると、五月のゴールデンウィーク後に修学旅行が実施されます。

今でこそ全国に広まった修学旅行ですが、本校が明治期に始めた長途遠足がその嚆矢です。当時は鎌倉や房総方面に宿泊を伴いながら出掛けていたようです。

現在は、富士山周辺、伊豆、八ヶ岳、沼津等へ5コースに分かれて三泊四日の日程で行っています。

それぞれ、①文学コース、②自然コース、③水産・お茶体験コース、④勤労体験コース、⑤野外体験または芸術コースとなります。

①文学コースは、国語科が主導します。川端康成や井上靖、太宰治といった文豪が歩き、また滞在し、執筆したその宿や旧跡を訪ねるというもの。②自然コースは、理科が中心となり、富士五湖の水質検査をし、その違いの比較検討を行うなど、科学的体験を積みみます。③水産・お茶コ



コースは社会科が運営するコースです。静岡県の大井川上流から下流までの産業を探访する試みで、上流の川根町でお茶摘みを体験し、下流の沼津市の漁港までを訪ねるというものです。④勤労体験コースは、酪農家にお手伝いに出掛け、牛の世話や農業体験をするというものです。技術・家庭科が担当します。⑤野外体験・芸術コースは、学年によって実施する内容が変わります。担当の教員が得意とする分野で、内容を開拓し、生徒と共に作り上げます。ある年は、魚の燻製を作り、飯盒炊爨をしました。また別の年には、オカリナなどの手作り楽器で音楽演奏をし、八ヶ岳の自然を写生するなどの体験学習をしました。帰校後は、各コースとも実施内容をレポートにまとめ、学年全体で発表会を行います。

コース選択は生徒の希望を募り、クラスを超えた編制がなされ、他のクラスの生徒との新たな交流も生じます。学年毎の行事は他に、一学年の社会科見学での人形の町岩槻訪問、二学年の長瀬での地学巡検、三学年での美術鑑賞会などがあります。

◆「秋季大運動会」 全校 九月

全校で取り組むものに、まず運動会があります。秋空のもと、子ども達の熱気がグラウンドいっぱいに、歓声と共に広がります。今年是通过第六十一回の運動会と



なり、半世紀を越えて受け継がれて実施されています。全校を縦割り五チームに分け、1組を赤、2組を青、3組を黄、4組を白、5組を緑とし、各チーム名を色で呼び分けます。今年の開会式では、オリンピックを念頭におき、1964東京オリンピックで国立競技場に掲げられた五輪旗が掲出されました。野津校長のご尽力によるものです。

実施種目はリレーやムカデ競走、棒登りの「アルプス一万尺」、騎馬に乗って積まれた一斗缶を紐の付いたボールで倒し落とす「ローハイド」、綱引きやタイヤ奪い、そして応援合戦から発展した、各色対抗、各チーム全員によるパフォーマンス合戦等々。生徒組織の運動会準備委員会の総務責任者を中心に、審判や設備、得点管理等も生徒の手によって行われます。各チームは、チームリーダー男女一名ずつが統括します。加えて学年毎のクラス十二名が、学年を超えたチーム員百二十名をまとめます。競技優勝、パフォーマンス部門優勝を目指す生徒たちの姿は圧巻です。

◆「学芸発表会」 全校 十一月

通称「学芸」は、いわゆる文化祭です。文化部に相当する生徒の活動団体である研究会や、保健委員会、図書委員会、クラスや有志の団体による発表が中心となります。演示部門での劇、バンド演奏、ダンスパフォーマンス等々多種多様です。また展示部門として、イラスト研究会や化学、天文等の研究会、各種委員会、教科の展示が校舎いっばいに展開されます。今年で第五十三回となり、多くの来校者がありました。学芸発表



会準備委員会の生徒が中心となり、全参加団体を取りまとめ、発表、展示場所を決めるなど、開閉会式も含め、たいへんな活躍をみせてくれます。

4 PTAや同窓会等

本校のPTA活動の特色の一つに、グリーンボランティアの活動があります。保護者の力を借りて、校内の美化、特に植栽関係の整備に尽力いただいています。また、PTAの役員として各クラスから理事を選出し、様々な委員会活動を行います。

一年生では厚生委員会を設け、制服のリサイクル運動に取り組みます。

二年生では、会報誌「育鳳」を編集する広報委員会を、三年生では、合唱発表会の受付や任意参加の講演会を企画する教養委員会を担当していただいています。

一方、卒業生も同窓会として本校の大きな支えになっています。一例として、本校創立百二十周年を記念した桐陰会館が建築されました。多くの先輩達が集い現役生と交流もできるような施設となっています。

その完成を祝ってホームカミングデイも開催され、各界の名士である諸先輩方をはじめ、多数のOB・OGが参加し、盛大な会が開かれました。

さらに、桐鳳会という教官OBの組織もあり、季刊誌を発行し、定例会を開いています。教育関連の情報交換や現職教員の応援団として、本校の教育を支援していただいています。

今後益々、我々教員はもちろん、保護者、生徒、関係各方面の力添えをいただきながら、百二十七年の伝統に裏打ちされた本校の良さを、世に伝え広め、発展していきたいと考えています。

(副校長 小山 浩)

筑波大学附属高校の「いま」

本校は、明治五年に東京神田昌平黌に師範学校が創設され、明治二十一年に、高等師範学校に尋常中学科が設置されたことに始まります。明治四十三年には、現在の東京都文京区大塚に移転し、今日に至ります。常に、日本の中等教育をリードし、多くの卒業生は各界で活躍しています。

今年度の一年生は一二六回生。都心には珍しく、広いキャンパスで、生徒達は脈々と受け継がれてきた様々な伝統を守りながら、活き活きと活動しています。

1 教育方針

- ① 「自主・自律・自由」をモットーとする。
- ② 「全人的人間の育成」という本校の伝統的教育精神を基盤として、「知育・徳育・体育の調和」をはかる。
- ③ 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期す。
- ④ 特別教育活動において、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。
- ⑤ 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。

◆「自主・自律・自由」

十五歳〜十八歳を過ごす「高校生」という時代は、人



生の中でも大変魅力的な時期です。「この時期をどう過ごすか」で、人生・社会への考え方も変わっていく、「魅力的であり、大切な時期」です。現在では、十八歳に求める社会の要求も徐々に上がってきました。

本校では、長年に渡り「自主・自律・自由」をモットーに掲げ、世の中がどの様に変化しようとも、自分自身で考え、対処できる人格を育てています。ここで大切なことは、この言葉の順序です。「自主・自律」ができてこそ「自由」があるのだということは、常日頃、生徒に伝えていることです。生徒達もそれにきちんと答えて、「自由」を謳歌しています。

「自主・自律・自由」を目指し、幅広い教養を身につけ、自ら様々な事柄に取り組む姿勢を身につける為の取り組みは、「教科教育」「行事」「部活動」「進路指導」など、学校生活全ての活動にあらわれています。

2 教科教育

◆幅広い教養を身につける教育課程

理系・文系の選択は二年生の末に行い、三年年から多くの選択授業が行われます。二年生までは、全員がほぼ同じ授業を受けます。幅広い視野を持ち、それぞれの教科の関連性を理解することは、大学を卒業し、社会に出てから大いに役立っています。また、選択の幅も広く、「第二外国語」では、ドイツ語、フランス語、中国語が選択でき、「芸術」は、音楽、美術、工芸、書道の四科目が開講しており、幅広い要求に応えられるようになっていきます。生徒は、自分の生活を組み立てる中で、理系・文系の進路に関係なく、このような教養の教科も組み込みながら、日々の授業に励んでいます。

◆活力溢れる授業

本校の授業は、どの教室をのぞいても生徒がよく話しています。単なるおしゃべりではなく、授業の内容に関することです。教師とのやりとりが大変多く、生徒からの質問もとても多い事が特徴です。「生徒の発言を引



き出す授業」が多く、生徒が受け身の授業はほぼありません。生徒は、互いの発言に耳を傾け、そこから自分の考えを導き出していきます。

また、プレゼンテーションが多く取り入れられています。限られた時間内に、要旨を効果的に伝える技術は、回を重ねる毎に向上していきます。国語、情報、保健、地歴公民…生徒同士の質疑応答にも的確に答える力は、将来社会でも活用できるものです。

3 行事・部活動

本校には、長い伝統の中で育まれてきた「特色ある行事」があります。もちろんどの行事も、生徒の自主活動の場となっており、運営は生徒達の手によって行われます。伝統を受け継いでいくことは、大変なことでもありますが、誇りを持って生徒達は取り組んでいます。

◆「蓼科クラス合宿」第一学年 夏

三年間クラス替えがなく、担任も持ち上がりという本校では、一学年の夏に行われる「蓼科合宿」の意味は大変大きなものがあります。

長野県北佐久郡立科町に「桐陰寮」があります。決して新しい建物ではありません。目的のひとつに「不便な生活を経験し、都会の生活を省みよう」という項目があります。生徒は携帯も東京に置き、蓼科山登山にはおにぎりを抱え、囲炉裏を囲んで歌を歌い…何とも風情のある三泊四日を過ごします。友達との深い付き合いを経験する中でクラスの結束を強め、三年間の基盤作りをします。生徒達にとっては毎年思い出深い行事になっています。

◆「修学旅行」第二学年 秋

本校は、今では当たり前になった修学旅行での「班活動」を、日本で初めて取り入れた学校です。

行き先は、沖縄やシンガポールなどですが、班で研究課題・行動計画を立て、それに沿って現地でも行動します。「修学」をするには、事前学習・事後学習も十分に必要ですし、また、現地では、その日に見学した所の発表会なども行います。ここで、必要なのが、教科学習で学んだ「プレゼン能力」です。正に、二学年までの学習の成果が発揮されます。

卒業後は、再び現地を訪れる卒業生が多く、「旅」の意味を高校で学び、歳を重ねてから感じる違いを楽しんでいるという話しも聞きます。

◆「開成レース」四月 「院戦」 六月

本校には、二大対校戦があります。

一つは、開成高校ボート部と、本校ボート部との「開成レース」です。今年で八七回を迎えました。(早慶レガッタよりも古い)そうです。今年本校が勝利したことにより、四四勝四三敗という成績です。現在目が離せない状態です。

毎年一年生全員が応援に駆けつけ、両校の卒業生も大勢応援に戸田漕艇場までいらっしやいます。

二つ目は、「院戦」Ⅱ対学習院高等科・学習院女子高等



科、運動部総合定期戦です。学校対抗の総合定期戦は珍しい行事です。両校の委員が話し合いを重ね、三校を持ち回り主会場としながら毎年九一日をかけて開催されます。今年で六五回を迎えました。

学校全体で部活動を応援する貴重な機会であり、三年生にとっては、部活動をまとめる、目標の行事となっています。そして何より、生徒も教員も両校の交流の場となり、伝統行事は脈々と受け継がれています。

◆「桐陰祭」九月 「スポーツ大会」十月

全校挙げての、大行事は「桐陰祭」(文化祭)と「スポーツ大会」。すべて、生徒の力で行われます。

「桐陰祭」は九月ですが、実行委員長は三年生。二年間の経験がものを言い、夏休みを計画的に利用して三年生も全員参加です。計画は既に1月より始まり、大勢のお客様をお迎えする準備にかかります。「計画・実行・反省」この流れを毎年受け継いで、委員会中心に大いに盛り上がります。自主と自由が発揮される時でもあります。

「スポーツ大会」は、運動が大好きな生徒が多い本校の生徒にとっては、待ちに待った行事です。クラス替えのない本校生徒にとっては、クラス対抗球技大会は毎年の経験の積み重ねができることでも熱が入ります。クラスとして勝利を得るには？真面目な討論が重ねられます。

本校の2本の柱

課題解決学習 海外派遣



「SGHスタディ」↓全校生徒が取り組む課題解決学習
一年…基礎的技能修得
二、三年…課題研究
「SGHプログラム」↓希望する生徒の海外派遣
全学年を対象とし、派遣生徒は必ず学校で発表を行い還元する。

平成二六年度に、SGH指定校に認定されました。二七年度は指定校一二校、アソシエイト校五五校の幹事を担っています。
グローバル・リーダーを育成する事業ですが、本校は次の八つの能力の伸長を図ることを目標としています。

- ① 専門性と教養
- ② 問題解決力
- ③ コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
- ④ 主体性と協調性
- ⑤ 異文化理解の柔軟性と日本人としてのアイデンティティ
- ⑥ 高い語学力
- ⑦ 議論する力
- ⑧ 地球規模の視点

以上を目標として、次の二本の柱で取り組んでいます。

◆高い部活動の入部率

本校生徒の部活動入部率は、九〇%以上です。放課後は部活動に熱中し、帰宅後は勉強時間を確保し、自分の生活リズムを作り上げて活躍しています。中には、インターハイ出場や、〇〇オリンピック世界大会に出場する生徒もあり、期待できるところです。

4 SGH (スーパースクール)

「SGH」への取り組みは、海外派遣が中心になってしまいうことがしばしばですが、本校では、「SGHスタディ」に重点を置き、授業に組み込んで全教員と全生徒が関わり合いながら取り組んでいます。
生徒は三つの課題分野 ①オリンピック・パラリンピックにおける諸課題 ②地球規模で考える生命・環境・災害 ③グローバル化と政治・経済・外交 から興味のある内容を選択し、来年度の発表を目指して課題研究中です。



◆「SGHスタディ」

◆「SGHプログラム」(海外派遣)

本校では、SGH指定以前より、海外派遣を行っていましたが、新しい企画も加わり、次の六つの内容で生徒を派遣しています。

- ① 日中相互交流 (中国・約三〇名)
 - ② シンガポール短期留学 (約八名)
 - ③ アジアヤングリーダーズサミット (APYLS…シンガポール・三名)
 - ④ 国際学術シンポジウム (IAS…韓国・三名)
 - ⑤ UBC研修 (カナダ…二三名 今年度)
 - ⑥ クーベルタン・嘉納・ユースフォーラム (二年に一回 スロバキアなど 本校から三名)
- どの企画も、現地での英語でのプレゼンテーション、ディスカッションが要求されます。



5 教師教育

附属学校の使命として「教師教育拠点」が挙げられていますが、本校も六月と九月の二回、筑波大学生と本校卒業生の教育実習生を受け入れています。多い年は五十名程の受け入れになることもあり、教科を越えたディスカッションや、実習生同士の報告会を実施し、受け入れ人数が多い利点も活かしての実習となります。実習生は、生徒との年齢は近いですが、初めての「教師」という仕事に、緊張もし、まずは「教科教育」を中心に学んでいます。

また、海外・国内からの教育関係者の授業参観などでも大変多いことも特徴です。お話の中で、本校が学ばせていただくことも多く、今後も多くの方々と交流を持ちながら、本校の発展を目指していきたいと思っています。

本校は、生徒に「教える」に留まらず、生徒を「育む」学校として歩んできました。これからも、先人が積み上げてきた、その時代をたくましく生きていくことができる生徒を、そして、真のリーダーを育てていきたいと思っています。

日々、活き活きと活動する高校生の姿は、周囲にも活力を与えます。「個性」を大切にして、自分の頭で考え、自分磨きをしっかりとできる三年間を過ごして欲しいものと願っています。

(副校長 那須和子)

芸面では黄金時代を迎え、シェイクスピアの作品と欽定訳聖書は英語の発達に大きく貢献した。

シェイクスピアの4大悲劇の一つ『ハムレット』のテーマは復讐である。ハムレットの嘆きの原因は母の不貞と叔父の品性の低さに留まらなかった。彼は亡父の幽霊から父が叔父に毒殺された経緯を伝えられ、その事実を確認すると復讐心に燃える。その過程において、恋人オフィーリアに対する不信任感、その父の軽率な言動に対する反発などが相まって、ハムレットの厭世感が募る。ポロニアスを誤って刺し殺したハムレットに対して、息子のレアーティーズは復讐心を抱く。王クロードシアスのハムレット殺害計画が露見した後、事態は急速に動く。

(3)はハムレットが親友のホレイシオウに語るせりふの一部である。ハムレットの有名なせりふの多くは復讐を誓った後に、「独白」として語られるが、(3)のせりふはそれ以前のものであり、ハムレットの人間観などが窺えて興味深い。

(3) 『ハムレット』 (Hamlet) (1 幕 4 場、23-38行)

So, oft it chanceth in particular men,
That for some vicious mole of nature in them,
As, in their birth, wherein they are not guilty
(Since nature cannot choose his origin),
By the o'ergrowth of some complexion,
Oft breaking down the pales and forts of reason,
Or by some habit, that too much o'er-leavens
The form of plausible manners — that these men,
Carrying I say the stamp of one defect,
Being nature's livery, or fortune's star,
His virtues else be they as pure as grace,
As infinite as man may undergo,
Shall in the general censure take corruption
From that particular fault: the dram of evil
Doth all the noble substance of a doubt,
To his own scandal.

『ハムレット』は600年の時を経てなお多くの人々の心を引き付けているが、その英語は当時も今も決して平易なものではなく、難解でさえある。しかし、この作品は人間にとって大切なものは何かを示唆してくれる。気に入った部分を覚えて、時折口ずさんでみるのもよい。

『欽定英訳聖書』の英語

英国王ジェームズ一世の命を受けた47名の聖職者は聖書の英訳に取り組み、6年の歳月をかけて1611年に新訳を完成させた。この聖書は統一がとれた簡潔な文体と、古雅で具体的な用語にすぐれ、英語の散文の鏡として、これまで大きな影響を与えてきた。(4)はこの旧約聖書の冒頭の一部である。

(4) 「創世記」 (Genesis) の冒頭 (i. 1-5)

- 1 In the beginning God created the heaven and the earth.
- 2 And the earth was without form, and void; and darkness was upon the face of the deep. And the Spirit of God moved upon the face of the waters.
- 3 And God said, Let there be light: and there was light.
- 4 And God saw the light, that it was good: and God divided the light from the darkness.
- 5 And God called the light Day, and the darkness he called Night. And the evening and the morning were the first day.

『欽定訳聖書』には語形と語義に若干古いものがあるが、キ

リスト教信者でなくても読むに値する興味深い内容が含まれ、簡潔明瞭な英語表現も学ぶに値する。

6 『耳なし芳一』

ラフカディオ・ハーン (= 小泉八雲) は1890年に来日し、1904年に没するまで、英語教師や文筆家として活躍した。彼は鋭敏な感覚と流麗な英語で古き良き時代の日本の紹介に努め、多くの名作を残した。(5)は彼の代表作の一つ、『怪談』の中の「耳なし芳一」の一部である。この作品は、安徳天皇や平家一門を祀った阿弥陀寺を舞台に、和尚と寺男たちが盲目の琵琶法師、芳一を平家の怨霊から救出する物語である。和尚は芳一の体中に「般若心経」を書き写し、芳一の姿が怨霊に見えないようにして、難を逃れさせようとした。しかし、和尚が芳一の両耳に経文を書き忘れた。迎えにきた平家の怨霊の侍には芳一の姿が見えず、止むなく見えている両耳をもぎ取って持ち帰った。

(5) 芳一の受難

Then, from the roadway, he heard the steps coming.
They passed the gate, crossed the garden, approached the verandah, stepped — directly in front of him.

"Hōichi!" the deep voice called. But the blind man held his breath, and sat motionless.

"Hōichi!" grimly called the voice a second time. Then a third time — savagely: —

"Hōichi!"

Hōichi remained as still as a stone, — and the voice grumbled: —

"No answer! — that won't do! ... Must see where the fellow is."...

There was a noise of heavy feet mounting upon the verandah. The feet approached deliberately, — halted beside him. Then, for long minutes, — during which Hōichi felt his whole body shake to the beating of his heart, — there was dead silence.

At last the gruff voice muttered close to him: —

"Here is the biwa; but of the biwa-player I see — only two ears! ... So that explains why he did not answer: he had no mouth to answer with — there is nothing left of him but his ears. ... Now to my lord those ears I will take — in proof that the august commands have been obeyed, so far as was possible"...

At that instant Hōichi felt his ears gripped by fingers of iron, and torn off! Great as the pain was, he gave no cry. The heavy footfalls receded along the verandah, — descended into the garden, — passed out to the roadway, — ceased. From either side of his head, the blind man felt a thick warm trickling; but he dared not lift his hands. ...

ハーンの作品は比較的平易で短めの文と適切な用語で書かれていることから、読むにも聞くにも適している。声に出して読み、暗記できるほど繰り返し読むと、英語の読解力は確実に向上すると思われる。



藤原教授の英語のはなし 第12弾

「耳を澄まして聞く英語」

講師：藤原 保明 (筑波大学名誉教授、聖徳大学教授)



● はじめに

読んでも聞いても人の心を打つような名文は、詩であれ散文であれ、文才のある人が推敲を重ねてやっと出来上がるものにちがいない。テレビが普及する以前はラジオで浪曲や講談の名調子に聞き惚れた人は多かったであろうが、映像中心のテレビや映画では言葉をじっくり味わえない。この講演では、「読んでも聞いても良い」と言える名文が生まれる背景や条件などについて考えてみた。

● 英語の名文の出現と鑑賞

1 一般人の手紙の英語

英国では、辞書がなく、印刷術が普及していない頃は、名作が誕生したとしても、手書きの本を回し読みするか、朗読に耳を傾けるしかなかった。それゆえ、英語が読み書きできる者の間でも、判読に苦労するような状況が生じていた。たとえば、英国中東部の中産階級のバストン家に保存されていた手紙を見ると、ケンブリッジ大学で学んだジョンの英語は語の綴り方に一貫性があり、内容もしっかりしているが、その妻マーガレットの英語には古い字母の使用、綴り方のむら、誤記などがある。

2 頭韻詩『ベーオウルフ』

バストン家の手紙より400年以上も前に、紙も学校もなく、国民の大半が無学であった古英語期(700-1100年頃)でも、キリスト教の修道院では聖書の翻訳、聖者伝や年代記の作成などが行われていた。この頃を代表する叙事詩『ベーオウルフ』は宮廷詩人により作られ、堅琴の弾き語りによって伝えられたものが8世紀初頭頃にまとめられ、現存する写本は10世紀末に書き留められた。

この詩はスウェーデン南部の勇者ベーオウルフが怪物を倒し、国難を救う武勇伝であり、デネ族の王フロスガールの宮殿を荒らす怪物グレンデルとその母親を退治する話と、故国に戻って王となったベーオウルフが国土を荒らす火を吹く竜を退治したものの、自分も致命傷を負って倒れ、手厚く葬られるという話から成る。

(1)に引用したのは、ベーオウルフが待ち構えているとはつゆ知らず、グレンデルが王宮での酒宴の騒ぎに腹を立て、沼地の住处から館を襲いに向かう場面である。

(1) 怪物グレンデルの来襲 (710-19)

『ベーオウルフ』という名を聞くと、欧米のゲルマン系の人々は郷愁を感じるほど、この作品は民俗と歴史に深い関わりがある。しかし、古英語は過去千年程の間に激しい言語変化を受けた結果、現在では英語を母語とする人々でさえまったく理解できない言語になってしまった。『平家物語』と同様、かつては多くの人々が聞き耳を立てたであろうこの英雄詩も、今では一部の専門家以外は寄せ付けられない難解な孤高の作品となってしまった。

3 チョーサーの『カンタベリ物語』

英語を解さないノルマンディー公ウィリアムが1066年に英国王となると、フランス語が大量に英語に流入し、イタリアからはルネサンスの影響を受け、英語はゲルマン語とラテン語とフランス語が混在する言語へと大きく変化していった。その頃に活躍した「英詩の父」ジェフリー・チョーサー(1340頃-1400)はストーリーの展開、性格描写、適切なユーモア、人間性に対する関心の強さ、人間の心理の鋭い洞察、自由な表現などに優れ、『カンタベリ物語』、『トロイラスとクリセイダ』など数多くの名作を残した。(2)は『カンタベリ物語』の「総序」に登場する巡礼者の一人、学僧を紹介した一部である。

(2) 「総序」の学僧の紹介 (285-296行)

A Clerk ther was of Oxenford also,
That unto logyk hadde longe ygo.
As leene was his hors as is a rake,
And he nas nat right fat, I undertake,
But looked holwe, and therto sobrelly.
Ful thredbare was his overeste courtopy,
For he hadde geten hym yet no benefice,
Ne was so worldly for to have office.
For hym was levere have at his beddes heed
Twenty bookes, clad in blak or reed,
Of Aristotle and his philosophie
Than robes riche, or fithele, or gay sautrie.

チョーサーの英語は今から600年以上も昔のものであるが、『ベーオウルフ』のように判読不能ということはない。語順は韻律の都合で多少入れ替わるが、綴り方や語の意味は現在のもものと大きく異なることはない。『カンタベリ物語』の内容はきわめて近代的であり、人間の心理や感情の描写に優れ、ユーモアあふれる登場人物の言動は古さを感じさせない。邦訳でも十分に楽しめる。

4 シェイクスピアと英訳聖書

16世紀の英国は内憂外患が続く厳しい時期であったが、文

公開講座

「茶の湯にみる和食文化」



講師

静岡文化芸術大学学長
熊倉 功夫

（平成27年11月14日(土)
お茶の水女子大学
共通講義棟で開

「和食」がユネスコの世界無形文化遺産に登録

「和食」は皆さんご存知のように、平成25年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。

日本の食文化についての最初の検討が始まったのは、平成17年頃、小泉内閣で「日本文化のブランド化」と「日本文化の海外発信」という政策が打ち出された時からですが、この時、「フアション」や「アニメーション」と並んで「日本の食文化」も検討課題となり、キックマンの茂木友三郎氏が座長、私が副座長となって、日本の食文化を海外に発信していくための検討が始まりました。

その後、その時の提案を私がまとめたという経緯もあって、私が責任者となって、「和食」日本の伝統的な食文化をユネスコの無形文化遺産に登録するための具体的な検討が始まりました。

ユネスコの無形文化遺産の登録は各国が批准している条約に基づいて行われるのですが、その条約の中に、「その文化が国内法で保護され、継承されている」という条件が付いています。ところが和食は、わが国の「文化財保護法」の指定を受けていませんし、「無形文化遺産」の

対象にもなっていません。これではユネスコに提案することすらできません。

そこで私たちが考えたのは、別の法律「食育基本法」に「我が国の伝統ある優れた食文化の継承を推進する」という条文がありましたので、この法律の条文を根拠にユネスコに提案することにいたしました。

こうして和食文化を海外に発信していくという検討が始まってからおよそ8年、さまざまなハードルもありましたが、平成25年に、和食はユネスコの世界無形文化遺産に登録されることになったのです。

「和食」とは何だ

ユネスコの世界無形文化遺産に登録されると、いろんな方から和食についての質問が寄せられるようになります。

その多くは、「とんかつは和食ですか?」「たこ焼きも和食ですか?」というような、普段日本人が食べている料理は和食なのか、そうでないのかというような質問でした。

私たちが今回ユネスコに提案したのは、そういう個別の料理ではなく、「日本の伝統的な食文化」そのものを提案し、それが世界無形文化遺産として認められたのです。

では「日本の伝統的な食文化」とは何かということになります。が、「ご飯を（おいしく）食べる」と「これが日本の食文化の基本であると考えます。そして、ご飯をおいしく食べるためには、〈汁〉が大事です。

味噌汁などの汁なしには和食は考えられません。

ただ、汁の概念は、現代と和食の形が整ってきた江戸時代では少し違っていて、その頃の汁というのは、いまでも「のっぺい汁」「せんべい汁」「けんちん汁」のような具だくさんの汁がありますが、それらと同じように、具が沢山入っていてお菜の代わりになるようなものだったようです。

それから、庶民にとっては高値の花で食することはほ

とどなかつたと思いますが、この時代の汁の具として最高のものは鶴、二番目は白鳥とされてきました。現代ではどちらも天然記念物ですから食べることはできませんが、江戸時代は將軍のお狩場のような特別なところで捕ることができました。

ご飯をおいしく食べるために、もう一つ大事なものがありません。それは漬物です。

ところが、実はこの漬物がいまピンチになっています。若者が酸っぱいものを避けるようになり、漬物を食べなくなっているからです。

もちろん若者も漬物とされているものを食べてはいるのですが、それは酸っぱくない漬物＝調味液漬けで、発酵させた酸っぱい漬物ではありません。

ご飯をおいしく食べるためには、漬物は「香の物」といわれるように、口の中をさっぱりさせる食べ物として欠かせないものです。

日本の伝統的な食文化を継承していくためにも、本物の発酵させた漬物を守っていかなければならないと考えています。

「和食の献立は「一汁三菜」が基本

和食の献立は「一汁三菜」が基本であるといわれていますが、ではそのような献立はいつごろから始まったのでしょうか。

この絵はいまから900年前の「病草紙」という絵巻物のワンシーンですが、ここに描かれている食卓は一汁三菜です。

ご飯は山盛りになっていますが、これは「高盛飯」という当時のご飯の盛り方です。そしてご飯には箸がまっすぐ立っていますが、これも当時の作法でした。

また、ご飯の横には汁があり、お菜らしきものも3つ並んでいますので、この絵からも、和食の献立の標準とされる一汁三菜のスタイルは900年前にはあったということがわかります。

またこの絵では、「折敷」（おしき）といわれる足のな
いお膳が使われていますが、これは一番格の低いお膳で、
お膳は足が高くなるほど格が高くなります。

今日でも懷石料理では、この折敷を使います。それは、
茶の湯の料理は決して贅を凝らしたものではありません。一番質
素な料理ですという意味で折敷を使うのです。

余談ですが、料理屋さんで、この折敷を使うお店をよ
く見かけますが、テーブルやカウンターの上に折敷を載
せるのはお膳の重複で、実はおかしいことなのです。

また、ホテルのビュフェスタイルのレストランなどで
は、ほとんどの方はトレイで運んできた料理をトレイに
載せたまま食べていますが、これもお膳の重複になりま
すから、トレイからテーブルに置きなおして食べるのが
本来のあり方です。

このような食べ方がそれほど違和感なく受けとめられ
るようになってきたのは、日本人には千年以上にわたっ
て銘々膳で食事をしてきたという歴史がありますし、い
まから90年ほど前まではまだ日本人の半数以上は箱膳を
使ってきたということも関係していると思われます。

また、日本人の食事の仕方が、大正期の終わりから昭
和期にかけて、それまでの箱膳で食事をするという形か
ら「ちゃぶ台」を囲んで食事をするというように変わり、

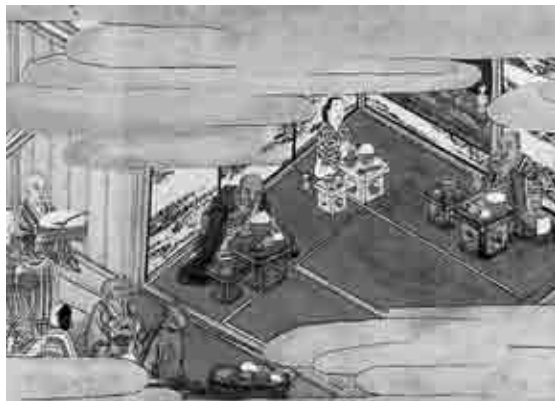


900年前の庶民の食事、一汁三菜『病草紙』より

さらに1970年頃からは「ちゃぶ台」もだんだん使わ
れなくなつてダイニングテーブルの時代になってきたと
いうことも、現代人には「お膳の本来の使い方」が遠い
ものになった一因ではないかとも考えられます。

【もてなし料理としての本膳料理】

「折敷」には3つ以上のお茶を載せるのは難しいので、
来客があつた



高位の僧侶の食事、二膳付き二汁五菜『酒飯論』より

時などに、も
つとお出しし
ようと思つた
らお膳を増や
すことになり
ます。これが
「二の膳」です。
次の絵をご
覧ください。

本膳にはお
汁が一つ、お
菜が三つ。「二
の膳」にはお
汁が一つ、お
菜が二つ載つ
ています。こ
れを合わせる
と二汁五菜と
なりますが、
この二汁五菜
がもてなし料
理である本膳
料理の基本と
なります。そ
して「二の膳」
でも足りない
時は、「三の

膳」、それでも足りないければ「五の膳」、「七の膳」となり
ます。そしてこのような本膳料理の中でも、「七の膳」が
最高のもてなし料理と位置づけられていたようです。

今川家に戦国時代の「七の膳」の献立表が残っていま
すが、それによりますと、八汁二十三菜というおびただ
しい数の料理が並びます。この贅沢さが、当時は、もて
なしの気持ちを表す最高の表現でもあつたのです。

【本膳料理とは違う千利休の「茶の湯の料理」】

このような形で大いに普及していった本膳料理ですが、
料理としてはマイナス面もありました。

例えば、「暖かいものは冷めてしまう」、「冷たいものは
温まってしまふ」、そして「料理の数が多すぎて食べきれ
ない」というようなことが挙げられます。

そこでいまから400年ほど前に、千利休によつて料理の
革命が行われました。それが「茶の湯の料理」です。

「茶の湯の料理」というのは、本膳料理のように贅沢な
珍味を数多く並べ立てるのではなく、質素を旨とし、最
低限の空腹を満たせばいいとする料理ですから、禪僧が
温めた石『温石（おんじゃく）』を懷に入れて空腹をしの
いだという謂われにちなんで、「懷石」料理と言うようにな
りました。

また、利休以前には、茶の席でも本膳料理がふるまわ
れていましたが、お茶会というのはお茶を飲むのが本来
のあり方ですから、利休は、お茶会での料理は、「二の膳」
「三の膳」は出さず、お膳は一つで一汁三菜の質素な料
理がふさわしいと考えたのです。

【懷石料理の三つの特徴】

懷石料理には三つの特徴があります。

その一つは、料理が順番に出てくることです。

料理を順番に出すということは、出来立てを出すとい
うことです。最高のもてなしの仕方、懷石の命と
も言えることなのです。



懐石では、はじめにご飯と汁とお菜（向付）が出てきます。そして、最初に出されたご飯、汁、向付、そしてお酒をいただいていると、ご飯のお替わりが出てきます。このお替わりは2回出てきますので3膳食べることになります。

現在の日本人はあまりお替わりをしないかもしれませんが、「一膳飯は不作法」とされ、お替りするのは一口分を残すということも約束事になっていて、懐石ではいまでもこの作法が残っています。

お菜の二つ目としては煮物碗が出てきます。

この煮物碗にはしっかりと身が入っていて、懐石ではこれがメインディッシュだという言い方もします。

そして煮物碗の次には焼き物が出てきます。

これが三つ目のお菜です。

先ほどご飯のお替わりの話をしましたが、汁もお替わりをいたします。これを汁替えといいます。この汁替えは2回勧められますが、2回目は断る約束事になっています。汁は二杯で終了です。

このように、懐石には、昔から日本で行われてきて、いまの私たちの日常生活から忘れ去られている食事の作法や知恵が残されていますので、懐石というのは大変興味深い文化であると受け止めています。

食事の後は酒の席になります。

一汁三菜の食事が終わると、その後も「強肴」（しいぎ

かな）といっているいろいろな料理が供されます。しかしこれはお菜（ご飯のおかず）ではなく、お酒をもう一献飲んでほしいという気持ちから、そのための肴として供されるものです。つまりここからは酒宴となるわけです。

本来、日本の宴会はご飯の席と酒宴の席は別々でした。ご飯が終わると、席を変えて酒宴になります。そしてこの酒宴には芸能が付きもので、昔の大名の酒宴では「能」が延々と演じられることが多く、そうした酒宴の時に供される料理を肴といったのです。

「吸い物」は酒を飲むための飲み物です。

酒宴になると「吸い物」が出てきます。この吸い物は食事の時に出てくる汁とは違い、酒の肴として供されるものです。つまり汁はご飯を食べるための飲み物であるのに対し、吸い物は酒を飲むための飲み物なのです。

ですから、この吸い物と汁の違いについては、「汁は味噌仕立てで、吸い物はお澄ましである」とか、あるいは「汁は具が多く、吸い物は具が少なく」というような言い方をされることもあります。実はそうではありません。潮仕立ての汁もありますし、具が多い吸い物もあります。

汁と吸い物の違いは、調理法や料理の内容によって区別されるのではなく、ご飯の席か酒の席かによって呼び方が違うのです。

つまり、ご飯の席であれば汁と言い、お酒の席であれば吸い物と言うのです。

懐石では、最後に湯桶が出ます。

普通の食事では最後にお茶が出ますが、懐石では後でお茶を飲むので、その代わりにお湯が出ます。このお湯が変わっていて、ご飯のおこげをお湯に崩した、いわば「おこげ湯」です。

この起源は大変古い時代の東アジアの飲み物で、いまでも韓国には「スンニョン」という食後の飲み物として残っています。

こうして、おこげ湯と漬物を頂いて懐石が終わり、締めくくりとしてお菓子が出されます。

ここまで「出来立ての料理を順番に出す」ことが懐石の一つの特徴であるということを詳しくお話してきましたが、「西洋料理だって、順番に出てくるよ」とおっしゃる方がいるかもしれません。

たしかに西洋料理も、オードブル、スープ、メインディッシュと一皿ずつ順番に出てきますが、これは1870年頃にロシア式サービスとしてフランスで始まった供食のスタイルで、それまでのフランスでは、オードブルのテーブルとメインディッシュのテーブルがあって、それぞれに沢山の料理を盛りつけた、いわば本膳料理のようなスタイルがとられていました。

ですから西洋料理が時系列で料理を出すようになったのはたかだか150年ほど前からのことです。

それに対して、日本の懐石料理は400年も前から、「出来立ての料理を順番に出す」というやり方をしているのですから、日本の和食文化の先進性は世界に誇っていることなのです。

懐石料理の二つ目の特徴は、お客さんに「亭主の気持ちを伝える」「亭主のメッセージを伝える」ということです。

例えば、懐石では最初に出すご飯は蒸れていないご飯を出しますが、これは、まだ蒸れていないご飯を出すことにより、「あなたのために、いまご飯を炊いたのですよ」という亭主のもてなしの気持ちをお客さんに伝えようとしているのです。

また亭主は、器や料理にも趣向を凝らし、季節感や祝意などを伝えようと努めます。これも懐石ならではの特徴といえるのではないのでしょうか。

懐石料理の三つ目の特徴は、料理を全部食べ切ること、残さないことです。

本膳料理は食べ残す料理でした。それに対し、懐石料理は、残さずに全部食べ切ることが約束になっています。そしてこの懐石の約束事が、近代の日本料理を支える基本的な考え方になっていくのです。

【和食はいま危機に瀕している】

現在、和食を取り巻く環境を見ていますと、和食文化はいま危機に瀕していると言わざるを得ません。

日本人は和食を食べなくなってきたからです。

ある社会調査によりますと、いま日本の家庭で一番大事にされている年中行事はお正月ではなくクリスマスだそうです。

日本の年中行事はその季節やその行事にふさわしい料理を育ててきました。

また、地域では、お祭りを通して郷土の食文化が守られてきました。

しかし、そのような伝統的な行事やお祭りもだんだんすたれ、それとともに和食文化も私たちの暮らしから次第に遠くなりつつあるのです。

そういうことを考えますと、ユネスコの「無形文化遺産」に登録されたということは、決してゴールではなくスタートだということが言えるだろうと思います。

【和食文化を守るために私たちにできること】

(その一) 身の回りのものをバランス良く食べること

日本の食事は、一汁三菜を基本として理想的な栄養バランスになっているといわれています。

しかし、1955年頃までの日本人の食生活は必ずしもいいとは言えません。全カロリー量の80〜85%は炭水化物で、脂質やたんぱく質が足りない食事でした。

そのような日本人の食事が少しずつ良くなったのは1960年頃からです。1970年代になると肉、魚などもどんどん食べるようになり、1975〜80年頃には日本人の食事は非常にバランスが取れたものになりました。

そのおかげで、現在のような長寿社会を達成することができたのですが、その後の日本の食文化は大きく変わりました。

例えば、ご飯の摂取量はかつての半分くらいです。そして、海外の食材への依存度が増え、日本人の食生活はだんだん和食から離れてきています。

私は「和食とは」と問われる時、いつも、「身の回りのものを食べる」と答えています。少々値段が高くても、安全な身の回りにあるものを食べることが大事です。

身の回りのものを食べ、ご飯を食べ、和食文化の根元を守りたいのです。そしてそうすることが、「農村を守り」「漁村を守り」「林業をやる山村を守る」ことになり、私たちの食生活を支える自然環境を守ることになると思っています。

(その二) 若者たちに和食の素晴らしさを伝えたい

和食で大事なものは「うまみ」です。

日本人は、何百年もの間、「うまみ」にこだわって料理をしてきました。

そしてうまみを取り出すために、私たち日本人は「出汁」(だし)をこしらえます。

江戸時代の料理書にも、「料理には出汁が一番大事である」と書かれています。

日本人が「うまみ」や「出汁」にこだわってきたからこそ、いま「うまみ」が第5の味として世界中に認められるようになったのです。

私たちはこの「うまみ」や「和食のすばらしさ」について、もっと若者たちに伝えていかなければならないのではないかと考えています。

【もてなしの文化も危機にある】

茶の湯では「お客様をいかにもてなすか」に腐心します。亭主は長い時間をかけて、「茶事のためのしつらえ」や「道具組」を練ります。

例えば、還暦の自祝い(自らお祝いをする茶事)では、掛物は還暦にふさわしいものを選び、道具組の中には還暦を暗示するとされている蟹を入れます。そうしますとお客さんはその蟹を見て、この茶事の意味を理解し、説

明がなくてもコミュニケーションが成立するのです。

料理屋さんでも同じことが言えます。料理屋さんはその日のお客さんにふさわしい掛物をかけ、花を添えてお迎えます。ところが最近では、折角のしつらえには目を向けることもなく、料理にのみ興味を示すお客さんが多くなり、その結果、お店の方をお客さんを迎えるためのしつらえもいい加減になって、同じ掛け軸をかけたままにしにするような店も出てくるようになりました。これでは「心入れのもてなし」にはなりません。

もてなしには、「もてなす側」と「もてなされる側」双方の教養と見識に裏付けられたコミュニケーションが必要なのです。お茶の世界では、これを「主客の交わり」といっていますが、それがいま非常に低下しているように思えます。

きょうは、和食が「無形文化遺産」に登録されはしましたが、実は、和食文化はいま危機にあるというお話をしてみました。

家庭の中でも和食を食べる機会が少なくなり、和食文化を伝えていくことがだんだん難しくなっています。

ですから、きょうこの会にお集まりいただいた皆さんには、ぜひ、若い方々に「和食の歴史」や「わが国の伝統的な食文化」について話してやっていただきたいと思っています。

そういう地道な活動こそが、和食文化を保護し、継承していく上で、大事な取り組みなのです。

私どもも、「和食文化国民会議」を通して、これまでもさまざまな啓蒙活動を行ってきましたが、特に11月24日の「和食の日」の前にはさまざまなイベントを計画しています。

和食を日本の大切な文化として継承していくとともに、和食の良さをもっと世界にアピールしていくためにも、皆さん方の力強いご支援をお願いして私のきょうのお話を閉じたいと思います。

筑波大学はいま

エンパワースタジオ一般公開

エンパワメント情報学プログラムは、平成27年5月に竣工したエンパワースタジオを舞台に、人の機能を補完・協調・拡張する工学システムを「作品」という形で展示し、実演を通じて一般社会の人々から評価を得た上で、それを次の研究につなげるステップ・バイ・ステップの研究教育プログラムです。

11月13日には「エンパワースタジオ公開シンポジウム」が開催され、エンパワースタジオの内部が初めて公開されました。圧巻は、全周壁面と床面に立体映像を投影し、天井に設置されたワイヤー駆動モーションベースです。なんと、立体映像空間中の飛行が可能な設備なのです。また、グランドギャラリーでは、巨大なビッグロボを体験できます。ビッグロボは、人が身長5mの巨人になった場合の身体感覚を体験するための装置です。その他、ショールーム型実験室でも研究開発中の装置のデモンストラーションが行われました。



まちあるき「ちよっと寄り道、湯島聖堂まで」

東京キャンパス文京校舎から、本学の起源でもある湯島聖堂までを巡るまちあるきツアー「ちよっと寄り道、湯島聖堂まで」が、10月25日に開催されました。これは、芸術系の研究成果発表展覧会「よみがえる孔子像と学問の礎」（10月25日～11月3日、於東京キャンパス）に併せて企画されたものです。メイン展示の、湯島聖堂大成殿

本尊孔子像の彩色復元などを鑑賞した後、その原型のブロンズ像がまつられている湯島聖堂を目指す、約3.5kmの特別コースです。

11名が参加し、文京区観光ガイドの方々の解説を聞きながら、講道館、坪内逍遙・宮沢賢治・樋口一葉などの文豪たちの住居跡、湯島天満宮などを訪ね、およそ3時間をかけて、ゴールの湯島聖堂に到着しました。起伏も多く少しハードな道のりでしたが、天候にも恵まれ、本学ゆかりの文化や歴史にも触れる盛りだくさんのまちあるきとなりました。



湯島聖堂大成殿本尊孔子像の彩色復元について解説する守屋正彦教授（芸術系）



まちあるきの様子

能智亜衣美選手が平成27年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会優勝！

柔道女子63キロ級能智亜衣美選手（体育専門学群2年）が、11月8日に行われた平成27年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会で初優勝を果たしました。準決勝戦は袈裟固で一本勝ち。決勝戦では、9月の全日本ジュニア体重別選手権決勝で敗れた好敵手、鍋倉那美選手を指導1で破り、見事雪辱を果たしました。



写真：長田洋平／アフロスポーツ

バドミントン部女子は主要大会制覇！バスケットボール部は国立大初のアベック優勝！

第66回全日本学生バドミントン選手権大会で、バドミントン部は、女子ダブルス（加藤美幸選手 体育専門学群2年、柏原みき選手 同2年）および女子団体において優勝しました。女子団体の優勝は、2年連続4回目、本年度は主要大会全制覇という快挙です。11月4日には表敬訪問を行い、学長や副学長らに報告しました。

また、バスケットボールの第67回全日本大学選手権大会では、男子が2年連続2回目（東京教育大学を含む）3回目、女子は10回目の優勝を成し遂げました。男女共に日本一は、史上2校目、国立大学としては初の快挙です。



バドミントン部女子表敬訪問



女子バスケットボール部



男子バスケットボール部

ソクラテス・サンバ・カフェ

11月22日に、B i V i つくば筑波大学サテライトオフィスに隣接しているつくば総合インフォメーションセンター（つくば市）にて「ソクラテス・サンバ・カフェ」が開催されました。人文社会科学研究科哲学・思想専攻が主催する哲学カフェで、哲学の知識は一切必要なく、一般市民の方々を含め、どなたでも参加できるものです。原則として、毎月第4日曜日14:00～17:00に、東京キャンパス文京校舎またはつくば市内で「街カフェ」、また毎月第4水曜日13:45～16:30に、筑波大学中央図書館エントランスで「図書館カフェ」を開催しています。詳細は以下URLをご参照ください。

(<http://tetsugaku-cafe.com/>)

第14回(平成27年度)

茗溪会賞(茗溪会の顕彰)

第12回(平成25年度)までは東京の茗溪会館で開催しており、茗溪会賞の顕彰式及び祝賀会を、昨年度から筑波大学で開催するように変更しました。これは茗溪会がつくば大学の同窓会としての性格をより一層明確にすること、出席者の皆様に筑波大学の雰囲気を実感していただくというものでした。

今年度も引き続き、11月28日(土)11時30分から12時まで顕彰式を筑波大学の学生会館2階マルチメディアルームで開催し、記念写真撮影後(グラビア参照)1階レストランプラザで祝賀会を開催いたしました。

顕彰式では本会の江田昌佑理事長の挨拶に続き、受賞者が紹介され、賞状と記念品が授与されました。次いでご来賓の祝辞としてつくば大学の稲垣敏之副学長が学長の祝辞を代読され、次に西川潔選考委員長より選考経過が説明され、受賞者を代表して太田初子さんが挨拶されて顕彰式は終了しました。

祝賀会では、受賞者の皆様から日頃の社会貢献活動についてお話をいただくなどして交流を深めました。

受賞者紹介(順不同 敬称略)

..... 団 体

歌声で心をつなぐ

社会福祉法人 あかねの会 音楽クラブ

(理事長 吉田由紀子)(東京都)

知的障害者でつくられた音楽クラブのメンバーが時間をかけて昔の歌の歌詞を覚え暗譜で歌えるように練習を繰り返し、都内の特別養護老人ホームで歌を披露し、お年寄りと一緒に歌う楽しさや笑顔で過ごす交流などを通して、人の役に立つことの喜びややり甲斐を感じながら活動が続けている。

市民緑地を作り、地域の憩いの場に

「獄之内みどりを守る会」

(代表 山口 信郎)(神奈川県)

「獄之内みどりを守る会」は、市民緑地(公有地)を地域に親しまれる場所にするために、地元有志が集まって除草や柵の設置などの保全活動を行っている。散策路に沿って花を植生するなど、緑地を訪れる人たちが気持ちよく散策できるような工夫を重ね活動している。

ゆめ花火で、笑顔を咲かす

TIACT企画「つくばけやきつず」

(代表 藤井 聡子)(茨城県)

「つくばけやきつず」は、筑波大学附属病院に入院している子どもたちとそのご家族の皆さんに笑顔になってほしいという願いから、子どもたちが描いたイチゴやピザ、自分の顔などの絵を筑波大学学園祭の時に『ゆめ花火』として打ち上げるという企画を実施している。

世界とつながる市民の手作り国際交流

国際交流団体「コスモエコー」

(代表 張替 明子)(茨城県)

「コスモエコー」は科学万博に備えて土浦市が開講した「100の英語を覚えてボランティアしよう教室」の受講生有志で発足し、昨年30周年を迎え、日本文化の紹介、日本語教室、国際NGOを通じてインドなどの恵まれな子どもたちのサポートをするなど多岐にわたる活動をしている。

気がつけば光る地域の宝

「やさと すてきな旅案内人の会」

(代表 本國 一衛)(茨城県)

「やさと すてきな旅案内人の会」は、八郷の観光スポットを広く紹介して地域を元気にしたいと活動するボランティアグループで、地元の人知らない隠れた観光スポットを発掘しながら、土・日・祝日に年間約2,000名の観光客に八郷の旅案内を行っている。

..... 個 人

70歳大学生 被災者支援

太田 初子(群馬県)

東日本大震災で津波にのまれながらも救助され、現在は精神保健福祉士を目指し大学に通い、学内に被災者支援サークルを設立して学生たちと気仙沼市を訪問し、被災者の悩みに耳を傾ける傾聴活動を中心に、被災者への炊き出しなどさまざまな支援活動が続いている。

「置き薬」でアフリカの医療支援を

町井 恵理(東京都)

「医療費が高い」「病院までが遠い」というようなアフリカの医療環境を改善し、継続可能な支援の仕組みを作るためにNPO法人「Afrimedic」を立ち上げ、タンザニアで「置き薬」方式をスタートさせ、本格的な運用に向け活動を行っている。

病棄り越え30種類のおもちゃをつくる

真野 末広(愛知県)

肢体不自由児の教育のために、ひとりひとりにぴったりの教具をつくりたいと制作を始め、自宅を「木真工房」とし、おもちゃや木工品の制作を続けている。木製にこだわりの、仕組みは単純でも子どもたちがとりこになるジグソーパズルや乗り物などを制作している。

世界で唯一、被爆者合唱団を指揮する

寺井 一通(長崎県)

平均年齢77歳の長崎原爆の被爆者でつくる世界で唯一の合唱団「ひまわり」を主宰し、長崎原爆をテーマにした曲を作詞作曲し、合唱の指導を続けている。また、今年の10月には、長崎ゆかりのシールボルトの母国ドイツで2回目の海外公演を実施し、平和への願いを訴え帰国した。

土地の生き返りを願う

井原 次夫(埼玉県)

農業や園芸の指導、講演などのボランティア活動に積極的に関わり、その活動の幅は広く、複数の農業協同組合から依頼されてグリーンカーテンの作成指導と協力を行い、園芸の講師、指導者としても活躍するなど、園芸・農作業等を通して地域貢献活動を行っている。

茗溪・東西南北

京都茗溪会総会・講演会・

懇親会、絆を深め終了、
次年度は更なる盛会を誓う!!

11月21日(土)午後4時からホテルグランヴィア京都において、会員30名の方々の御出席をいただき総会・講演会・懇親会を開催しました。

総会では、挨拶、平成27年度茗溪会総会、平成26年度会務報告の後、続いて平成26年度会計報告監査報告があり承認されました。

また、京都茗溪会事務局体制として、現会長・代議員 塩見 均(昭47年東教大卒)氏が今年度をもって退任する。その後任として現事務局局長 川合英之(昭56年筑波大体育学群卒)氏を充てる。併せて、平成28・29年度茗溪会代議員候補に川合

英之氏を推薦することが承認されました。

講演は、NHKステラ事業部長小林千洋様(元京都放送局長・昭53年筑波卒)に『外から見た京都』と題して御講演をいただきました。小林様は、連続テレビ小説や大河ドラマなどの制作もされ、幅広いキャリアを積み、幅広い話題や裏話など豊富で抽斗も多く、楽しい講演でした。大河ドラマに関する1分間の放映にどの程度の収録時間を要するか?などの三択問題もあり、会員は、学生のように少しドキ

ドキ。また、スーパーハイビジョン化に伴い、某化粧品会社と女優さんの肌を美しく見せるファンデーションの副次的開発があったと「目に鱗」の話もありました。

京都については、『多面的な顔を持つ』『当たり前にある風景が歴史』『京都はテーマパーク』『ならぬものはない』『の保存意識』などの切り口で味わい深い話をされました。日常生活の中では気付かない京都の良さや住んでいる幸せを改めて知る機会となりました。

懇親会では、細川 磐氏(昭29年東教大卒)の開会挨拶、田淵良秋氏(昭33年東教大卒)の乾杯の音頭で始まり、時代を超えての和やかな交流で、あつという間の2時間でした。

途中、小池雅人氏(昭51年院卒)の科学技術分野文部科学大臣表彰を讃えての表彰、伊藤博子氏(昭50年東教大卒)著『保健体育教師になろう!』(大修館書店)の本の紹介を行ないました。結びは宣揚歌で締めました。次年度は、多くの会員の方々の出席をいただき、40名を超える総会にと誓いつつ…。

平成27年度茗溪会

山梨支部活動報告

茗溪会山梨支部では、年二回の全体会(総会・懇親会・教養講演会・忘年会)を企画し、約200名の会員相互の親睦と情報交換の機会としています。そしてそのための役員幹事会がやはり年二回、事務局校を中心に支部長・副支部長・幹事等の役員が集まり、その準備を進めています。

今年度は7月25日に支部総会・懇親会をニュー芙蓉において開催し、平成26年度の事業・決算報告と平成27年度役員選出、事業計画・予算案についての慎重な審議が行われ、新スタッフによる活動が始まりました。

そして先日12月5日に、本部より高野力常務理事・事務局長をお迎えして、教養講演会と各種受賞者祝賀会を兼ねた忘年会がニュー芙蓉において盛大に開催され、35

名の参加者のもとに楽しい一時を過ごすことができました。

特に教養講演会では、昨年まで筑波大学副学長を務め、今年度より

山梨県立大学理事長・学長に就任された清水一彦先生による「私の教育制度学研究40年」という演題で、専門の教育制度学

についてのご講義をいただき、支部会員の主流を占める現職中・高校教員にとって高大接続と単位制度、そしてアクティブ・ラーニングの考え方など、最近の教育情勢に関する多くのご示唆をいただきました。

その後の忘年会では、参加者の最年長者である元山梨県立大学学長の鶴見尚弘先輩の乾杯の音頭のもとに懇親会が始まり、最後は「宣揚歌」の大合唱と万歳三唱で、会は盛況のもとに終了しました。

とはいえ、入会者の減少と全体会参加者の減少という近年の課題に対して、小中教員や民間・行政分野で活躍している会員への参加を、今後も積極的に呼びかけていきたいと考えます。

山梨支部長(県立盲学校長)

菊島良治(筑一人文・S54)



平成27年度茗溪会 宮城県支部総会・懇親会 報告

- 1 日 平成27年11月21日(土) 17時
- 2 会 場 ホテル白萩
- 3 参加人数 25名
- 4 総会次第
 - (1) 開会
 - (2) 支部長挨拶
 - (3) 活動・会計報告
 - (4) 茗溪会本部からの連絡報告
 - (5) 次年度支部役員について
 - (6) 懇親会
 - (7) 宣揚歌
 - (8) 閉会



5 内 容

平成27年度支部総会は、仙台市内の銀杏並木が黄色く彩られる晩秋から冬への変わり目となった11月下旬の土曜日に、ホテル白萩にて開催いたしました。昨年度は、筑波大学体育専門学群長の真田久教授にご講演を賜り、さらにご来賓として総会・懇親会・そして二次会にもご出席いただきました。本年度は、支部会員のみで、会員相互の親睦・情報交換を深めることを主な目的として開催いたしました。宮城県茗溪会支部は、現役の先生方が数多く参加し、支部活動の活性化を図るため、会長・執行部役員をその先生方を中心にお願ひし、次期会長に松坂孝先生（昭和55年筑波大体育卒）

を選出し、組織の若返りを図りました。

懇親会では、昭和29年卒の最高齢である先輩の矍鑠たるお話に勇気づけられ、さらに本年度宮城県の教員として採用になった平成25年卒の新進気鋭の新任教師から、将来の活躍が大いに期待できる頼もしさを感じることができました。その他にも、多くの先輩方のご活躍が窺える充実したお話を拝聴することができました。参加者の年齢層に幅はありますが、教育界における不易流行の教えに変わりはなく、今日的话题から大学時代の思い出話に各テーブルが大いに盛り上がり、有意義な時間を共有することができました。結びになり参加者全員で宣揚歌を唄い、これまで以上に会員相互の連帯が強固になったことを実感しながら宴を終えました。

今後とも、支部活動の充実のために、会員相互が緊密に連絡を取り合うことはもちろん、茗溪会本部からのさらなるご指導とご支援をお願いいたしまして報告に代えさせていただきます。

（茗溪会宮城県支部長 井上雅勝）

第三回東京都茗溪会

開催の報告

去る11月29日(日)に、第三回となった東京都茗溪会総会が60余名の参加者を迎えて茗溪会館において開催されました。総会は新しいテナント会社によりリニューアルとなった新会館「茗溪館」を会場として開催されました。会長の高橋基之氏の挨拶の後、茗溪会理事長・江田昌祐様から一般社団法人となって四年目となり、会員の相互交流にこれから力をいれていきたいとのご挨拶。守屋正彦教授からは筑波大学の国際化の様子のご報告。総会議事では26年度活動・会計、27年度活動・予算も満場一致で承認されました。

続いて「四分半に込めた気象情報」をテーマに毎日夜9時のNHK全国ニュースにお天気キャスターとして出演されている気象予報士・井田寛子さんの講演が行われ



ました。井田さんは筑波大学のご出身で製薬会社勤務の経験も踏まえて気象予報士となり、NHKの

お天気キャスターとなった経歴を持つ才能と努力の方です。ご自身がどのようにして気象予報士、NHKお天気キャスターとなったかや、夜9時40分から流れる天気予報がどのようにして作られているかという興味深いお話を聞くことができました。さらに、地球温暖化問題についての実験演示も含めてのご講演がありました。

交流会は、綺麗になった二階茗溪の間で開催。高橋会長の挨拶の後、江田理事長のご発声により乾杯。司会の浅井一郎氏によって和やかに進行しました。途中には高橋会長のソロによるオペラの紹介や学生歌「常陸野の」を作曲した飯島睦子さんによる作曲紹介もあり華やかな雰囲気では進行。そして最後は宣揚歌「桐の葉」を全員で肩を組んでの大合唱となり東京教育大学・筑波大学共同の歴史に思いを馳せながら楽しいひと時を閉会としました。

来年の第四回東京都茗溪会総会・講演会・交流会は平成28年11月20日(日)を予定しています。

（事務局長

徳田安伸）



茗溪学園だより

中学Gコース

本校では開校以来、グローバル教育に対して先進的な挑戦を行ってきました。昨年4月には、中学にグローバル(G)コースを設置いたしましたが、そのご報告を簡単にさせていただきたいと存じます。なおこの「Gコース」は、高い英語力を維持発展させることを希望する者または高校での国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)に関心があり、DP取得に意欲のある者を対象としています。

Gコースの生徒は通常の学級に在籍し、英語授業の時に特別編成されるG1クラスG2クラスで授業を受ける形態です。G1は、従来の海外帰国生で英語力の高い(英検で2級程度以上の力)生徒向けに開設していたものに当たります。G2は、今回新設したもので、本校受験時で英検3級程度の力(話す・書く)がある者を対象としています。G2クラスの授業を通して、高校入学までに英検2級以上の英語力をつけることを目指しています。これは、IBDP課程進学への土台となる英語力で、将来の可能性をさらに拓くコースと言えます。授業は外国人教師が担当しますが、週1時間は日本人教師が行います。



中1の12月には英語劇を行います。ピーターパン活躍の場面です。この期間はGクラス生も所属学級と一緒に活動します。

現在G1は18名、G2は11名です。授業中の生徒たちの態度は意欲的かつ積極的で、特にG2では予想以上の伸びが見られます。G1コースではAO入試を行っていますが出願数はすでに昨年を上回りました。より良い授業を作り出せるよう担当教師も研究を重ねています。

IBコース進捗状況

現在IBDP「候補校」ですが、現在「認定校」となるよう準備を進めています。そして、現中学2年生が高校入学時の2017年開始の予定です。

高校1年時は、本校の通常カリキュラムとほぼ同じ授業です。これは、日本の高校卒業資格を満たすためですが、さらに加えて、IBDP準備講座も行いますので、ハードな学習が待ち受けています。IBDPは2年間の課程で、高校2年時からIB科目の本課程が始まります。課程の最終試験は、高校3年時の11月です。その結果から、2020年1月に、茗溪学園最初のIBDP修了者が誕生します。

IB科目は6グループあり、その内2つ以上の科目を英語で受講することが求められます。本校では、文系選択は3科目、理系選択は2科目を英語受講とすることで進めています。昨夏はIB教員養成のためのワークショップに、国語科・社会科・理科・数学科・英語科から20名もの教員が参加しました。「知識をいかに使うか」という点に焦点を置いたIB式授業を体験する内容でした。IB教育の内容を理解する教員を数多く配置できることは、グローバル教育を学校全体で展開する本校の建学の理念に合致するもので、積極的に学ぼうとする本校教員の意欲もまた特筆できるものと思います。

すでに、国内外から、多くのお問い合わせを頂いています。今後準備が整い次第、説明会等を実施していく予定です。

部活動など結果報告

- ◎高校ラグビー部：第95回全国大会4年連続21回目の出場。目標ベスト8以上
- ◎中学ラグビー部：東日本大会ベスト4入り、準決勝・決勝は12月、優勝を目指す。準決勝は東北代表と対戦
- 全国ジュニアラグビー大会(年末大阪にて)茨城選抜(茗溪の選手で編成)として出場(2年ぶり)
- ◎中学テニス部：全国私学大会男女出場。北関東大会で男優勝、女準優勝
- ◎高校バドミントン部：関東選抜大会出場。県新人戦団体男2位女3位、個人シングルス男優勝、男女ダブルス共に2位
- ◎茨城県中学新人大会結果
 - ・剣道部：男女とも団体優勝。個人女優勝、男3位
 - ・器械体操部：団体女優勝、男準優勝。個人女優勝、男2位
- ◎室内楽部：第25回定期演奏会

11月3日県南生涯学習センターホール(土浦市)にて開催。中学1年生部員が13名と多数入部、活気あふれる発表会となった。



室内楽部演奏会

日本文化・マナー講座

本校では海外留学をする生徒が多く、同時に留学生も多数やっています。このような国際交流の場は、日本文化や歴史を知り、日本人としてのアイデンティティーを感じる絶好の機会となります。そこで、全日本きものコンサルト協会のご協力をいただき、「伝統文化和装礼法教室」を開催しました。

講座当日、留学を希望し日本文化に関心のある生徒ら、中高男女40名余りが参加し、礼儀作法、日本文化の考え方、浴衣の着装、マナーについて学びました。フランス、南アフリカ、タイからの留学生(AFSなど)での1年間の交換留学生、現在ドイツからの留学生が加わり4名が在学中)

も参加し、交流を深めると共に日本文化体験の良い機会になりました。3回シリーズでの開催としていますが、日本文化を継承し、世界に向けてよき発信者となっていくことを願うところです。



マナー講座

◆昭和29年卒 東京教育大学英語英文科クラス会

と き 平成27年10月9日(金)

ところ 港区芝浦 牡丹

写真は前列左から高崎、森山、佐藤佐智子

後列左から藍原、佐藤猛郎、清水、佐藤有弘、田畑、巻島

幹事：佐藤有弘



◆東京教育大学 総合農学科同期会（昭和34年卒）

と き 平成27年10月19日(月)

ところ 千葉県鴨川グランドホテル

千葉在住の久保・石堂両君の幹事で開催、昨年の京都に続けての開催となりました。今回は11人が参加、内5人が同伴で計16人で楽しい懇談のひと時を過ごすことができました。大半が80歳を越え、参加が困難な会員も多くなり開催方法を変更し、今後は東京で昼食会を開催することとなりました。

写真・文：根岸輝治



◆東京教育大学文学部英文科 昭和30年卒業同期会

と き 平成27年6月13日(土)

ところ 地下鉄茗荷谷駅近くの 庄や

今回はじめて昼食会というかたちで集まり、7名の参加者がありました。学生時の思い出やたあいな話や最近社会や個人でちょっと気になることなど、楽しい会話と憩いの時を過ごしました。

写真：荻野治雄 文：高瀬順啓



◆37・21の会

と き 平成27年10月29日(木)

ところ 横浜万葉倶楽部

会を名付けた杉本さん(育林)を始め元気な顔が、港横浜に集合した。全国区のメンバー達も75歳を過ぎた。年少の白井さん(林産化学)が4月に急逝し、主として健康上の理由による「残念欠席」組が今年は半数にも上った。物故者への黙祷でしんとなったが、久しぶりの全員宿泊で盛り上がった。地球温暖化による環境問題対策としての森林の存在、防風林として津波と戦い希望のシンボルとなった奇跡の一本松、森林から海に出るプランクトンと沿岸漁業、再生可能エネルギーとして木質バイオマス発電、そのもたらす恩恵の多さに改めて気付かされる。筑波移転により新しい学類に分散された林学科は最早存在しないが、これからも筑波で貢献していくであろう。会合には日本樹木医会副会長を務めた浜田さん(育林)も現役で健在。茗溪を思い、次回全員の再会を期した。

東教大農学部林学科(木材加工)37年卒 大西 實



◆昭和37年卒 東京教育大学体育学部 無二会

と き 平成27年10月24日(土)

ところ ユーハイム千駄ヶ谷店

私達は昭和37(1962)年に卒業し、無二(62)会と名乗っております。今回の卒業53周年大会に53名が出席しました。

来年は「喜寿の祝」を10月22日(土)に全員集合で開催し、「白鳥の詩」を力強く歌います。東京教育大学で学んだ「誠実さ」は社会人の入場券として大いに役立ちました。有難うございました。

世話人：片倉、石橋、杉山、大谷、三弊、河本



追 悼 録 (敬称略)

浅野 博 筑波大学名誉教授 27・10・7
〒168-0072 杉並区高井戸東1-31-4 C-219 長男 浅野 敦紀

中村 以正 筑波大学名誉教授 27・10・11
〒270-1164 我孫子市つくし野3-12-203 長男 中村 正樹

山川 國雄 16文三 27・7・23
〒252-0325 相模原市南区磯野5-14-1 長男 山川 和邦

八橋 毅 18理一 26・11・27
〒662-0828 西宮市門戸西町3-15 長男 八橋 元

宮本 四郎 18理二 27・9・27
〒170-0003 豊島区駒込1-10-15-302 長男 宮本 侯一

野村 京治 20特中数 27・10・1
〒742-2106 大島郡周防大島町小松1078-2 妻 野村ユキエ

那須榮八郎 22農教 27・9・1
〒649-2106 西牟婁郡上富田町南紀の台17-30 妻 那須 成子

吉田 善雄 23理二 27・10・16
〒114-0015 北区中里3-16-24 長男 吉田 敦

持田 宏 23農教 27・7・18
〒214-0008 川崎市多摩区菅北浦2-16-10 妻 持田 照江

佐々木輝雄 24文三 27・5・9
〒299-4403 長生郡陸沢町上市場1192 妻 佐々木美恵子

小林 幸子 24農教 26・12・11
〒249-0008 逗子市小坪3-26-16 弟 和田 義典

渡辺 忠胤 25大国史 27・10・18
〒192-0051 八王子市元本郷町4-11-1 長男 渡辺 良胤

石井 清 28教大社 27・1・14
〒277-0016 柏市八幡町3-64 長女 石井 雅子

田中 茂 28教大心 27・10・29
〒252-0205 相模原市中央区小山4-4-1 長男 田中 徹

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・ 遺族住所・氏名

上野 俊幸 29教大体 27・8・16
〒814-0123 福岡市城南区長尾3-9-3-301 妻 上野 節子

小山 晃三 30教大言 27・5・6
〒227-0048 横浜市青葉区柿の木台19-18 妻 小山 道代

河野 崇 31教大数 27・9・15
〒347-0064 加須市東栄1-2-25 長男 河野 淳

古林 英一 32教大物 27・11・13
〒221-0801 横浜市神奈川区神大寺4-10-11 妻 古林 久世

竹宮 隆 32教大健 27・10・4
〒178-0064 練馬区南大泉1-35-21 妻 竹宮 敏子

工藤 泰次 33教大経 27・10・13
〒183-0044 府中市日鋼町1-3-19-303 長男 工藤 克彦

尾勝 宏光 33教大数 27・8・12
〒362-0041 上尾市富士見1-17-3 次女 尾勝 広美

鈴木 昭壽 33教大健 27・9・28
〒252-0203 相模原市中央区東淵野辺4-14-23-409 妻 鈴木 コウ

田中 栄二 34教大農経 27・7・14
〒276-0023 八千代市勝田台4-26-10 妻 田中 澄子

根岸 和宏 36教大農工 26・9・5
〒336-0931 さいたま市緑区原山1-31-15 妻 根岸恵美子

星野 保雄 37教大心 27・10・7
〒350-1304 狭山市狭山台3-26-5-7-301 妻 星野 路子

柳原 功夫 39教大体 26・12・29
〒491-0136 一宮市杉山字地藏浦11-2 妻 柳原たづ子

木村 均 49教大応数 27・7・24
〒124-0013 葛飾区東立石1-22-5-305 妻 木村 洋子

著 書 紹 介

高校生が知っておきたい投資の教養

著 者…小島五郎(昭和45教大文学部哲学専攻)
本の大きさ…新書版 198ページ 800円+税
出版 社…幻冬舎(幻冬舎ルネッサンス新書)

とかく、お金の話は尊敬の対象になりません。
年4回の著溪会報誌においても、金融教育に関する話題はほとんど記憶にありません。

しかしながら、これからは金融教育が学校現場において、重要視されるのではないのでしょうか。

18歳選挙権が確定し、また2016年より「子どもNISA」(ジュニアNISA)が始まります。

0-19歳の子どもの対象に、証券口座等の開設が認められ、保護者や祖父母から提供される資金の運用が、可能になります。

GPIF(年金運用に関する独立行政法人)や共済組合の年金基金においても、25%まで国内株式投資に振り向けようという時代になりつつあります。

学校現場における一石を投じた、この新書を刊行しました。

お金、マネーに関しては、ご批判等もあるかとは思いますが、著溪会報誌に紹介していただくと、大変ありがたいです。

この新書は、アマゾンや楽天、本屋クラブから、ネット注文が可能です。

著書紹介の掲載について

季刊誌「著溪」には、著溪会員の皆さまの著書を紹介しております。先輩・後輩・友人などの著書を、25字×18行程度の紹介文にして著溪会事務局へ送ってください。

なお、書名、著者およびご本人の卒業年度、学部・学科(学群・学類)、本の大きさ、ページ数、価格、発行所等を付記して下さい。

送っていただいた原稿は、掲載検討会議ではかつたうえ、できるだけ多く紹介しようと考えております。また、紹介した本を永く保存するため、事務局に一冊ご寄贈くださるようお願い致します。

平成27年秋の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

坂口 勉 38教大日史 36院修日史 (北海道)

我謝 孟俊 43院博化

吉田 正治 36教大英

盛 大衛 33教大英

皆川 孝志 38教大健

中里 治男 39院修数 34教大専攻

瑞宝小綬章

瑞宝小綬章

安田 恭一 31教大総農

横山 弘 34教大総農

小原 正隆 40教大英

青木 克美 35教大言語

宮川 清 37教大特教

神山 輝夫 43教大数

曾川 定雄 39教大日史

佐藤 仁朗 29教大地理

石塚 崇 41教大農

清水 尚彦 44教大化

中田耕太郎 40教大数

津守 俊一 42教大言語国文

上竹 利彦 33教大地鉦

瑞宝双光章

本郷 雅彦 41教大林

瑞宝双光章

平成27年春の叙勲(追記)

瑞宝双光章

鈴木 孝男 33教大英

広報

代議員選挙の結果

本誌1087号で公示しました平成28・29年度の代議員選挙は、11月6日(木)の立候補締切りまでに定数(110人)に達しませんでしたので、各地域・職域に推薦をお願いしました。その結果、候補者が出揃いましたので、12月21日(月)に選挙管理委員会を開催し、候補者を無投票当選として次期代議員が確定しました。その名簿は、次号1089号で発表します。

教職受験対策研修会

教員採用試験を受ける筑波大学生のための研修会を今年も茗溪会と筑波学都資金財団の共催で次のような要領で開催致します。

期間 平成28年3月7日(月)～9日(水)
会場 筑波学都資金財団 筑波研修センター
定員 50人
受講料 7,000円のところ茗溪会が2,000円補助
受付 平成28年2月1日(月)～29日(月)
筑波研修センターにて

表紙の言葉 デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

今回は松美池の西側を対岸のかえで通りから撮影した。松美池は大学の主だった建物が集中する「中地区」の南端にある。池の西側にはキャンパスを貫くベデ(歩行者専用路)と広場がある。正面の建物は手前が自然系の学群棟、奥の高い建物は同学系棟である。学園祭や入学時期、あるいは防災訓練時、この付近は学生で溢れる。撮影日も昼休みに学生バンドが演奏を行った。学内屈指の人気のスポットである。実は松美池には上池と下池があって、見えているのは上池である。下池はかえで通りの東側(後方)に同じく大さきで在る。しかし、こちらの池は陽に対する陰のような存在で、いつも植物で覆われ、在ることすら知らない学生が多い。私は勝手にミステリーゾーンと呼んでいる。

編集後記

・前号から始まった特集「筑波大学付属学校を巡る」は第2回として「付属中学校」と「付属高等学校」について原稿をいただき掲載致しました。
次号は「付属駒場中学校」と「付属駒場高等学校」を掲載する予定です。
・秋は本会の行事が目白押しでした。まず9月26日(土)には、藤原保明氏の「耳を澄まして聞く英語」が筑波研修センターで、11月14日(土)には熊倉功夫氏の「茶の湯にみる日本文化」がお茶の水女子大共通講義棟で、11月28日(土)には第14回茗溪会賞の顕彰式が筑波大学の学生会館で開かれました。
その報告を詳しく掲載しましたので、お読み下さい。

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成28年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七

Email info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・学生会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

Email tsu3inu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKI//SHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正 樹

つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：上席執行役員秘書室長 岡本 俊一
（昭和56年 第一学群 社会学類 卒業）

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

（平成3年環境科学研究科修了）

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



ASICS.COM

～筑波大学発ベンチャー～

つくば

ウエルネスリサーチは

暮らすことで「健幸」になるまちづくり

スマートウエルネスシティ(SWC)構想を

進めています！

〒277-8519

柏市若柴178番地4 KOIL505

Tel: 04-7197-2360



～筑波大学の知の発信～
筑波大学出版会
<http://www.press.tsukuba.ac.jp/>

3月刊行予定

土地利用でみる
 アジアの都市化と自然環境
 山下亜紀郎 編著

発売：丸善出版株式会社
 TEL 03-3512-3256
 FAX 03-3512-3270
<http://pub.maruzen.co.jp/>

最新刊 好評発売中

地域的近代を生きるソロモン諸島
 紛争・開発・「自律的依存」



関根 久雄 著
 ソロモン諸島の人々と社会のリアリティを描きだすことを目的として、反近代でも前近代でも、脱近代でもない「ソロモン諸島の近代」の様相を導く論理を人類学的視野から明らかにしています。

A5判・198頁・本体3,400円＋税
 ISBN978-4-904074-37-4 C1036

2015年10月24日刊行

巨大地震による複合災害
 発生メカニズム・被害・都市や地域の復興



八木 勇治・大澤 義明 編著
 東日本大震災を例に「複合災害」という視点から解説しています。巨大地震の発生メカニズムに始まり、地震・津波被害、さらに復興の課題について分析・研究を体系的に紹介しています。

A5判・224頁・本体2,900円＋税
 ISBN978-4-904074-38-1 C3044

2015年11月25日刊行



株式会社 阿部兄弟建築事務所

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032
 東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
 代表取締役 荒井 豊人 (昭和57
 建築工)
 TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

相続・法人設立・ビザ etc...

行政書士 高谷真一事務所

〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号
 TEL&FAX 029-821-8177

代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)

〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺3-1-7
 電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)



スキューバダイビングの アセントツアー

東京都知事登録旅行業3-3443号

東京都港区赤坂6-13-19-502 03-3560-3381

取締役社長 川上 雄笹 (昭和45年
 農芸化学卒)

<http://ascent.co.jp/> kawakami@ascent.co.jp

経営・労務・年金etc. コンサルタント

福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3
 TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)
 社会保険労務士

(株)東京科学光芸社

茗溪会館写真スタジオ

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
 茗溪会館3階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

聖徳大学 文学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬55
 電話 047-365-1111(代表)

E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp

学部長 藤原 保明 (昭48教修英
 平3筑博文言)

スポーツ選手、文化人のマネジメント&キャスティング
 トレーニングジム、鍼灸整骨院、デイサービスの運営

株式会社 スポーツカンパニージャパン

〒590-0412 大阪府泉南郡熊取町紺屋2-21-17
 TEL 072-452-0030 <http://tachiryugym.com>

代表取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)
fujita@sportscompany.co.jp

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
 電話 03(3456)1578

常務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修にー

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,700円から
 茗溪会員とご家族に割引あり

研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
 シングル145室ツイン5室和室5室／研修室2室 (120・40名)
 和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)
 館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
 ●バス／「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
 徒歩8分 ●つくば駅からタクシー／5分

一般財団法人筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒308-0008 茨城県つくば市天久保1-13-5
 TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: center@meikei.or.jp

(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

38年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

筑波大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>
<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



38年の実績
株式会社

ブライダル

東京本社
Network

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事が見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



桜美林大学
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群 (2016 年開設)

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
学長 三谷 高康
入試事務室相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同)

¥ 6,500→平日¥ 4,800 休前日¥ 5,800

シングルA (バス・トイレ付)

¥ 8,200→平日¥ 6,200 休前日¥ 7,200

ツイン (バス・トイレ付)

¥13,800→平日¥ 9,800 休前日¥12,800

朝食バイキング ¥ 1,050→¥ 760

大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2

TEL 03 (3356) 4605

FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線	新宿御苑前駅	1 番出口	} より徒歩 7 分
都営新宿線	新宿三丁目駅	C 7 出口	
地下鉄副都心線	新宿三丁目駅	E 2 出口	

JR新宿駅より車 5 分

茗溪会館写真スタジオ

ご婚礼・成人式・七五三・ご入学卒業写真・証明写真
家族写真・集合写真・出張撮影等・卒業アルバム作成



〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館
(株)東京科学光芸社 3 階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



SSH活動報告会

「SS研究・個人課題研究発表会」

(後援：筑波大学)開催のお知らせ

期日：平成28年1月20日(水)

全体会：10：00～12：00

会場：つくば国際会議場

分野別発表会：13：00～15：30

会場：茗溪学園

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究(優秀研究)口頭発表・ポスター発表、ほかにSSH活動成果報告一般公開いたします

お問い合わせは、下記e-mailアドレスへ



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」

e-mail kouhou@meikei.ac.jp(見学等) entry@meikei.ac.jp(入試等)